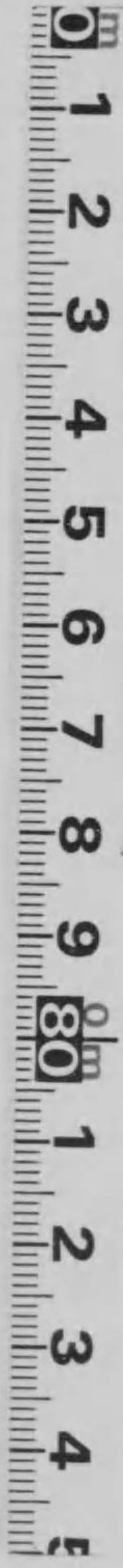


253
121



始



工 35-50

253-121

惡教育之研究

教育學博士西山樵治著

東京 弘學館

大正
2. 9. 23
内交

自序

四年あまり歐米の教育界を覗いて来た著者は歸朝以來一年有半の其の間靜かに本邦教育界の現状を探るに稍力めたつもりである。日本の教育と歐米のそれとを比較して見るに優れりと感じた點もあつたけれども自分には不幸にして腑に落ないことの方が多かつた。そこで之を假りに惡教育といふやうな名をつけて呼んで見たのである。

自らは感ずる所あつて一昨秋以來私立小學校の創立に意を決し遂に昨年四月から巢鴨に私立帝國

尋常小學校と幼稚園とを開いて自ら生徒十五名より成る尋常一二年級を受持つて居る。

要するに本書中に述べたところの多くは著者が歸朝以來一年あまりの間に深く印象された寧ろ不愉快な幻影なのである。著者は斯くの如き自分の觀察が單に一部分に止まり、或は事實に於て不當であることを衷心我教育界の爲めに祈るものである。

され、斯くの如き幻影が實は著者に生涯の事業とする一私立學校創設の動機を高めしめたのであるから之を生涯忘れしと誓ふことゝを以て今此の書を公にするのである。幸に與へられた言論の自由

を遠慮なく發露し得たのが何よりうれしい。

本書に於ては先づ我國現代教育の缺陷即ち惡教育が何れに存するかを指摘し、尙ほ此等の缺陷は如何にして矯正せらるべきであらうかに就て稍詳かに述べて置いたから、讀者幸に著者の意を汲みその一つたりとも之を矯正することに於て成功せらるるならば著者の光榮は此れに過ぎないのである。

尙ほ本書中第二十章「米國の女子教育」と題する一編は文部省の囑託によつて明治四十一年に調査報告したものである。其の他數編は東京朝日新聞及び教育雜誌に於て發表掲載したのも含んで居るこ

自序
とを斷つて置きたい。

四

東京巢鴨町帝國小學校に於て

大正貳年の初秋

西山 愨 治

惡教育之研究目次

第一編 學校に於ける惡教育

第一章 惡教育の實例

- 一、惡校長、二、多數の生徒に不完全なる教育、三、教育者生徒を解せず
- 四、口先ばかりの道德教育、五、親切過ぎる教授法、六、年始の催促をする惡教員、七、文房具の濫費、八、小學校の惡小使、九、劃一的惡制度と去勢されし教師、十、參觀人本位の惡教育。

第二章 惡二部教授

- 一、日本の教育と歐米の教育との比較、二、東京市小學校の惡二部教授
- 三、本末の顛倒

第三章 贅澤なる日本の小學校

- 一、校舍、二、講堂及雨天體操場、三、垣根、四、屋上運動場、五、ブランコ

目次

一

六、ストーブ及スチーム、七、標本及圖書其の他の設備、八、經營、九、小使。

第四章 小學校に無理な四十五分間授業……………四〇

一、疲勞の問題、二、教授時間の長さの問題、三、小學校は生徒一人に就て千六百時間餘を横着せり、四、小學校の四十五分間授業は亂暴、五、ロウ博士實驗の結果、六、日曜日は廢し得べき乎。

第五章 疑はしき道德教育……………五二

一、英國の實際的道德教育、二、日本の口先道德教育、三、修身教授の教員選定、四、道德上の制裁、五、疑はしい道德教育、六、教育勅語の取扱。

第六章 疑ふべき就學歩合の高率……………五七

一、實例、二、其の方法の巧妙、三、制裁の必要、四、落第と義務教育未了。

第七章 電氣仕掛の新教育と低能兒……………六四

一、流行せる低能兒研究、二、紐育に於ける電氣仕掛の新教育法、三、無害の興奮劑、四、ストックホルムに於ける實驗、五、テスラ電器の構造、六、電氣のかけ方、七、女子及低能兒教育のみの福音に止らず。

第八章 親切過ぎて實力のつかぬ教授法……………五九

一、親切過ぎる教へ方とその反動、二、現代小學校教授の弊、三、生徒の實力を高むる教授法。

第九章 けなし主義の教授法……………一〇三

一、低能兒教育法よりの經驗、二、けなす教員は氣短者、三、獎勵主義たるべし。

第十章 不器用者養成の教育……………一〇六

一、技藝科教授の不振、二、圖畫の不成績、三、習字廢し得べき乎、四、型ばかりの手工。

第十一章 アルファベットを教へざる國民教育……………二八

一、アルファベットを學ばざる小國民、二、英語教授の不振、三、尋常小學校に於ても英語を課すべし。

第十二章 劃一的に特色なき學校……………三三

一、何ぞ特色を發揮せしめざる、二、デューデ氏青年自治教導團、三、ギ

ル氏市政學校四、政治的道德教育に對する批評、五、政治的道德の長所

第十三章 表情なき教育……………二八

- 一、表情に乏しき教師
- 二、生徒を笑はせる教師
- 三、生徒を笑はせ得ざる教師は不幸なり
- 四、笑靨の教育的價值
- 五、生徒を泣かしむる教師
- 六、生徒を泣かしめ得ざる教師は不幸
- 七、涙の教育的價值
- 八、教育士に於ける涙と笑靨

第十四章 職業教育に乏しき小學校及中學校……………二九

- 一、職業教育の必要
- 二、獨逸の職業教育
- 三、米國の職業教育
- 一、職業教育の必要
- 二、獨逸の職業教育
- 三、米國の職業教育
- 一、職業教育の必要
- 二、獨逸の職業教育
- 三、米國の職業教育
- 四、職業教育なき不運兒
- 五、職業教育の效果
- 六、小學校の職業教育
- 七、中學程度の職業教育

第十五章 惡試験……………三〇

- 一、試験勉強の弊
- 二、試験の目的及價值
- 三、試験の方法
- 四、定期試験の必要ありや
- 五、問題の出し方
- 六、小學校の試験
- 七、校長をして考査せしめよ
- 八、評語、評點の問題

第十六章 利用せられざる體格検査……………三一

- 一、體格検査の性質
- 二、大いに體育上に應用すべし

第十七章 惡講習會……………三二

- 一、強制修養の教員講習會
- 二、講習會を改善せよ

第十八章 事務に囚はるゝ小學校……………三三

- 一、帳面倒れの小學校
- 二、帳簿はそれほど大切なるか
- 三、事務に囚はれし教員の教育力
- 四、事務員及事務の節減

第十九章 教案に囚はるゝ教師……………三四

- 一、教案存廢問題の起原
- 二、教案は囚はれ易し
- 三、雄辯家の態度
- 四、教案の奴隸とならずして之を支配すべし
- 五、教案は囚はれざる程度に於て必要也
- 六、教育者の自覺を促す

第二十章 迷へる女子教育と米國の女子教育……………三五

- 第一節、米國の女子教育
- 第二節、女子教育の目的に關する論争
- 第三節、女子の地位
- 第四節、女子の職業
- 第五節、男女交際の實際
- 第六節、男女共學の

實際第七節、小學教師としての女子、第八節、女子高等教育の結果、第九節、米國の女子教育と歐洲第十節、女子大學教育の實際、第十一節、結論。

第二十一章 氣位高く實力のなき女子教育……………三六

- 一、實際に迂遠なる女子教育、二、女學校出の女子、三、母の家政振を批評す、四、ところが書けない、五、文子の家政、六、満足に女中さへ使へず、七、下女入用の新聞廣告、八、慈善會の失敗、九、文子の自覺、十、女子教育上の一問題。

第二十二章 良妻賢母の中毒と女魂男才主義……………三六

- 一、良妻賢母の中毒、二、女魂男才主義

第二十三章 小學教員の冷遇……………三二

- 一、言論の自由を興へられざる教員、二、物質的待遇法、三、歐米に於ける小學教員待遇法、四、靈的優待法。

第二十四章 惡教科書制度……………三二

- 一、國定教科書の現状、二、教科書の訂正、三、教科書は經典にあらず。

第二十五章 惡視學制度……………三五

- 一、學校探偵としての惡視學、二、視學の弊、三、視學の積極的獎勵の任務。

第二十六章 惡幼稚園……………三一

- 一、あやしい保育法、二、遊園に於ける保育を怠る、三、幼稚園の利害、四、危険なる知育主義の幼稚園、五、幼稚園の利用。

第二十七章 顧みられざる左利の生徒……………四一

- 一、左利を矯正せざる日本の教育家、二、左利研究の諸問題、三、左利に關する參考書、四、左利の起原、五、右利の起原、六、左利の生理及心理、七、左利は七八歳迄ならば矯正される、八、兒童研究會の觀察。

第二十八章 中學英語教授の不振……………三五

- 一、實力のつかぬ中學校の英語、二、英語の教授法を改善せよ、三、會話と作文教授に全力を注げ、四、讀み方詩及文典、五、辭書の用法、六、英語教授上の注意。

第二十九章 高等遊民の養成……………三八

- 一、國民生活と教育、二、就職難と高等遊民、三、高等教育を受けて不平

四、疑はしい教育家の態度

第三十章 繼子視せられたる私立大學……………三六六

一、私立大學の發達せざる理由 二、米國の私立大學の發達 三、私立大學に對する政府の態度 四、私立大學隆盛の原因 五、私立大學の收入 六、私立大學の特色

第三十一章 大學の切賣教授と惡教授法……………四〇四

一、切賣教授の弊 二、惡教授法 三、博士の大學教授法改良意見

第三十二章 エリオット博士の日本教育評……………四一四

第二編 家庭及社會の惡教育

第一章 家庭に行はるゝ惡教育……………四二二

一、亂れた家庭は不良少年の養成所 二、惡感化を興ふる母 三、喰倒れ着倒れの家政病 四、沒趣味と虛榮心の養成 五、衛生思想に乏しき家庭 六、迷信の惡教育 七、惜時と規律に乏しい家庭 八、父母の分業的教育

第二章 家庭の學校に對する悪い態度……………四二九

一、教師を馬鹿にする父母 二、學校に信頼せざる家庭 三、學校を過信し過重する弊

第三章 學校と連絡せざる家庭……………四三四

一、學校は家庭を知らず 二、家庭は學校を知らず 三、教師家庭訪問の弊 四、保護者會よりも平素の參觀

第四章 子供の幸福を呪ふ文明社會……………四三六

一、文明は新鮮なる空氣と光線とを奪ふ 二、郊外に學校を設立すべし 三、文明は子供の無邪氣を奪ふ 四、都市は不良少年の養成所 五、學校の運動場を開放すべし

第五章 時代思想と沒交渉の教育……………四四二

一、現代思潮の傾向 二、時代思想と教育との關係

第六章 反國家思想と教育……………四五二

一、教育家の責任のみならず 二、疑ふべき點 三、今後の覺悟

目次終

第七章 外國文明に對するあやしき態度……………四五六
 一、漢學の勃興。二、西洋文明に對する國民の批評的態度。

第八章 惡文學と教育……………四五六
 一、惡文學の影響。二、自然主義の文學と教育。

第九章 一片の通俗教育……………四七三
 一、學校は青少年の公共浴場。二、宇宙は一大學校なり。三、無教育者及上流に通俗教育を與へよ。四、電車に乗りて知る通俗教育の必要。五、家庭は通俗教育の小學校。六、通俗學校。七、新聞誌誌及著書は通俗教育の教科書也。八、講演會。

第十章 研究せられざる小兒勞働問題……………四七六
 一、我工場法案は未だ完からず。二、米國の小兒勞働。三、小兒勞働に關する法令。四、小兒勞働と心身の關係。五、小兒勞働と國家。六、救濟法

惡教育之研究

西山 愨 治 著

第一編 學校に於ける惡教育

第一章 惡教育の實例

一、惡校長

此に名を出すことだけは一先づお預かりとして東京市山の手附近にある小學校、其の生徒には華族の子弟多く、將校學者、名高い實業家、官吏等の子弟が尠くない。

同校の校長が其の小學校へ赴任して來た新教員に對しての注意といふのが

頗る振つて居る。それは次のやうであつた。

『此の小學校は御承知の通り東京市の公立小學校中最も貴族的な小學校の一でございますから、此の點を常にお忘れのないやうに願ひたい。』

本校生徒の父兄の中には海軍中將あり、陸軍少將あり、大學教授あり、文部省の官吏あり、内務省の局長あり、伯爵あり、子爵あり、大銀行、大會社の社長、若くは頭取ありといふ具合ですから、此の邊によく注意して貰ひたい。此等の子供の中には随分手に餘る亂暴な若殿様もあり、狡猾な坊ちやん、さてはお轉婆なお姫様やお嬢さんなどがある。併し此等に對しては成るべくそつと置いて置いてほしいものです。假令少々悪いことをなすつても徒らに叱り飛ばすといふやうなことをせられては困る。若し君が此等の子供を叱りなどするときは我輩は必ず數日ならずして東京府へ出頭を命せられ、お小言を澤山頂戴しなければならぬ。或は東京市へ呼び出され、又は文部省へ呼ばれてお眼玉といふ随分割の悪い役廻りをしなくてはならぬ。斯くて吾等の命とも頼む地位をも危くせらるゝのであるから此の邊のところはよく注意に注意を加へてやつて貰ひたい。』

斯くの如きは或は校長哲學の最巧妙なる一元的解決であり、又校長としての游泳術の極意であるかも知れない。併し斯くの如き悪校長の部下に居る悪教員の手には教育されつゝある可憐な小國民の前途は蓋寒心すべきではあるまいか。斯くの如き教育を指して悪教育のスペシマンと呼ぶべきであらう。日本の小學校にはこれでも校長さんかと疑はしいのが尠くはないやうである。

二、多數の生徒に不完全なる教育

現在の小學校は成るべく多數の生徒に不完全なる教育を施すべく努力して居るやうに見受けられる。

日本の公立小學校に就て其の生徒數を問へば曰、九百八十人、曰、千百五十名、曰、千二百八十人、曰、千四百人。校長や教員などは多數の生徒を有することを以て私に自校の誇として居るやうである。

一學級には七十名、甚だしきは七十七八人の生徒を集めて受持つて居る教員がある。又、二部教授をする教員の如きは百二三十名を受持たねばならぬといふのである。

教育上の理想から言へば一人の教員の受持数は成る可く四十人若くは五十人に限りたい。そして此の少数の生徒に十分なる教育を施したのである。然るに現今の小學校は一人の教員に七十人以上も受持たせるのであるから多数の生徒に不行届な、不完全なる教育を施すに力めて居るといふやうな醜態を表はして居る。矛盾も自己の不行届を誇稱するに至つては寧ろ御愛嬌である。

校長は全體の生徒を見る明がなくてはならぬ。然るに當今の小學校長に千人以上の生徒全體を見ることが出来るであらうか、甚だ以て疑はしい次第である。一學校の生徒数は校長が生徒全體の姓名と顔とを覚え得る程度に止めて置かねば本統の教育は出来ないやうである。如何に記憶力のよい校長でも千人以上の子供の顔と名前とは覚えられないであらう。然らば斯かる校長は生徒を知らずして漠然教育しつゝあるのである。斯くの如き悪教育はどうか早速矯正したいものである。

三、教育者生徒を解せず

教師の理解して居る子供と、其の父兄の理解して居る子供との間には餘程の

相違があるやうである。斯くして現今の教育は殆ど何人にも個人的注意を拂つて居ないやうである。これ一つには教員が子供の家庭を知らないからである。又、其の子供等の父兄に接しないからである。學校と家庭とが連絡して居ないからである。

學校及家庭の連絡法として學校に於て父兄會とか保護者會といふやうなものが開かれるけれどもこれも形式だけのことで到底その實際の効果を擧げるものは先づないといつてよからう。

これは學校長や教員が注意深い用意を以て家庭の訪問をするとか、いろ／＼工夫しなくてはなるまい。併しその根本となるものは矢張り一學級の生徒數を四、五十人に限定し、一校の生徒總數を四、五百人に定員せしむることである。斯くして少数の生徒に完全なる教育を施すやうに努力せしむべきである。

四、口先ばかりの道德教育

教師は教室に於て「朋友相信じ」に就ては頗る巧妙に説明するやうである。成程と生徒に思はせる、如何にも朋友相信じなくてはならぬものと思はせるやうで

あるけれども生徒が一步運動場へ出づるや直ちに他の生徒と喧嘩を初める。前の修身の時間に教へられた朋友相信じとは正反對なる行爲即ち喧嘩といふ事實が教室以外の運動場で演せられて居るにも係らず教師は教員室で雑談に夢中、一向に知らぬ顔である。

運動場に於ける實際の道德教育を心得ない教員は確かに小學教師たる資格はない。休憩時間中に活きた教育をしない教師は口先ばかりの教育家である。これで一等国の國民教育といへば我祖先は地下で苦笑するであらう。

現在の小國民の多くは斯くの如き不都合なる教員に斯くの如き悪教員を施されつゝあるのである。

五、親切過ぎる教授法

一體今日小學校で行はれて居る教授法は子供に對してチト親切過ぎはしないであらうか。かんでふくめるといふやうな教へ方である。どうも子供の力を使はせる量が少な過ぎるやうである。

教科書はだん／＼やさしくなる。教師の教授法はだん／＼上手になる。生徒は

少しも勞することなく、學習に骨折ることが少ない。骨を折らないから小學教育の進歩が遅く、實質が伴はない。内容が充實しないといふ非難が出るのである。

子供は自分で苦んで得た知識はなか／＼忘れないものである。然るに六ヶしいところは教師が先きへドン／＼道案内をしてくれるので、生徒は教師に従つて行けばよいといふやうな具合になつて、少しも生徒は自分の力で進むといふことをしない。斯くして實力、自學力といふものがつかないのである。

現今の教授法は衛生的に牛乳やお粥で育て號令をかけて腹式呼吸ばかりやらせて居るやうな軟教育である。これでは到底實力の養成にはならない。今少し生徒を學習に苦ませてよからう。寒稽古的の硬教育も時には大に必要であるといひたい。

子供を餘り可愛がり過ぎて失敗した父母は世の中に澤山ある。現今の小學校には教へ方が餘り親切過ぎ却つて子供の爲めにならず生徒をスポイルする教員が多いやうである。

六、年始の催促をする悪教員

日本橋のさる公立小學校の教員は昨年のお正月に教室で五六人の生徒の名を呼んで『なせあなた等は私の宅へ年始に來なかつたのですか』と、やつたさうである。

此の五六名の生徒が學校から泣いて歸つたので、その父兄が他の同級生の父兄に就て調べて見ると讀めた名を年始の催促に藉りて實は此の先生生徒よりのお歳暮の催促と遠廻しにしやれたのであつたといふことがわかつた。といふのは此の五六名の生徒の家庭を除いては皆お歳暮として先生のところへ多少の心づけを贈つたのである。然るに此の五六名だけが來なかつたので先生頗る不興、遂に全級生徒の面前で五六名のものに對し年始の催促をやつたのであつた。

さる東京の名高い高等女學校の教員は某生徒よりの贈ものに就て多くの他生徒の面前で聲高くお禮を言つて他の多くの生徒をして遂に之を倣はざるを得ざらしめたのと好一對の事實談である。

今日の師弟の關係は斯くの如きであるかと思へば實に淺ましいものである。

斯くの如き教員に教育を受けしめつゝある父兄は宜しく斯くの如き教員を排斥すべしである。然らずんば斯くの如き教員の居る學校を廢學せしめ、須らく他へ轉校せしむべきである。

七、文房具の濫費

今日普通に小學校の生徒が使用する文房具は稍濫費の嫌がある。

おつ母さま鉛筆買ふから五錢頂戴、粘土買ふから五錢頂戴、筆記帳買ふから五錢頂戴、筆よ、紙よ、墨よ、インキよ、ペンよ、と、随分度數が多いので一ヶ月多きは三、四十錢にも及ぶものがある。斯かる子供の多くは必要な文房具に支拂ふところは其の五分の一位なものであらう。他の五分の四位は自分の勝手なものを買ふ、珍らしいもの、下らないものに投じて居るのが多いやうである。

又、學校によると、父兄會であるとか、保護者會とかいふ名目の下に父兄から毎月十錢、二十錢を徴集して文房具を學校から供給することにしてをるのがある。これは子供任せにして置くよりも確かに濫費の弊を防ぐやうである。併し、某小學校では、

尋常一年生の學用品一ヶ年	三圓二十錢
尋常二學年	五圓五十錢
尋常三學年	六圓
尋常四學年	七圓
尋常五學年	九圓五十錢
尋常六學年	九圓七十錢

斯くの如く見積つて居るのである。これなどは確かに贅澤であるといはねばならぬ。

余輩の経験によると鉛筆などは尋常一、二學年にありては一學期二本、一學年には五本もあれば澤山、筆記帳なども一學期三冊、手工用品として粘土の二百匁、圖畫用品として色鉛筆、書き方用として半紙、筆、墨位なものである。一學年には、

十錢	鉛筆五本
五錢	色鉛筆
七錢	粘土五百匁

五錢 半紙二折

十八錢 筆記帳

二十錢 大、小筆二本及墨一本

合計 七十錢

學用品は尋常一學年で七十錢、尋常二學年に於て一圓位あればやれない筈はないのである。若し其れ以上に多くを使用するといふものがあれば其れは確かに子供が文房具を亂用、濫費して居るのである。然らずんば學校の處置が曖昧であらう。此頃の公立小學校には教員校長などが文房具店と結托し、或は學校に於て生徒には文房具の代價を高く供給するといふやうな不都合極ることを敢てするものがあるといふことである。此の點に就ても生徒の父兄たるもの決して油斷は出來まい。

節儉の美德を教ふべき學校に於て文房具の濫費といふ節儉の正反對なる不徳行爲が眼前に行はれて居るにも係らず、其れをすら之を取締ることが出來ないといふのであるから現代の小學校教育も心細い次第ではあるまいか。

八、小學校の悪小使

余輩の知人にその令息を東京市山の手切つての評判のよい公立小學校といふのへ通學させて居るのがある。その人の話に月謝は一ヶ月十錢か十五錢であるから大助かりで喜んで居ます、併し、小使さんに心づけをするのが月謝の二、三倍もかゝるのには閉口します、とのこと。

この評判のよい公立小學校ですら小使に一ヶ月三、五十錢の心づけをしてやらなければ雨の日雪の朝に雨具の仕末をして呉れない、下駄や上草履の紛失したときに探しても呉れない、足が泥になつても雑巾を貸してくれない、水も汲んでくれない。お湯の飲みたいときにも飲ませて呉れないといふのである。可愛子供が待遇が悪くなるといふので詮方なしに毎月小使に月謝よりも多くの心づけをするといふ醜態を演じて居るのである。

こんな悪い小使に限つて校長などの鼻息を窺つて御機嫌を取るのには誠に手のもので、巧妙を極めて居る。校長はまんまとだまされて忠實なる小使であるとばかりに信じ切つて居るのであるから困つたものである。

生徒数の多い東京の小學校では五人位は小使を使つて居るやうである。併し學校長の手腕一つでは随分五人の小使を二人若くは三人で十分に用を辨じて行くことが出来るのである。

校長が箒を持つてば部下の教員は雑巾を持つ、生徒は運動場の紙屑を拾つてまはるといふ調子になるのである。然らば悪い小使を五人も置いて前に述べたやうな弊害を防ぐやうに善良にして忠實、正直なる二、三名の小使を雇ふことが出来るのである。

校長が箒など持つては校長の權威を失するといひ、教員が雑巾など手にしては教育家の威信に關するとか教師の面目を逸するとかいふやうな狭い考を持つて居る萬事お役所風の公立小學校では到底小使の改善といふやうな手近い何の難作もない問題さへも満足に解決することが出来ないものである。何とあはれなものではないか!!

斯くの如く校長や教員までが働くとすれば生徒は紙屑を散亂しなくなる、便所を汚さなくなる、校舎を穢なくしないやうになる、落書が止むといふやうな譯

で大いに生徒の自治心を高めることも出来る、又、節約といふことを目のあたり見せしめることも出来る。自分のことは自分でやれとか、儉約をしようなど口先ばかりで教ふるよりも斯くの如く實行させた方が百の説教よりも勝つて居るのである。

九、劃一的惡制度と去勢されし教師

日本の教育の劃一的なところは恰も生垣のやうな遣り口である、稍特色ありとして折角芽を出し發達しかつたものを視學などいふ植木師が出て來て希望多き新芽を摘殺するに忙はしいといふ有様である。

何事も形式一片、杓子定規にやつてのけやうとする悪い傾向がある、斯くの如き惡傾向は教育の凡ての方面に顯はれて居るのである。

人口百萬、二百萬を有する大都市の小學校に對しても、亦人口僅かに二千内外の一寒村に對しても劃一的に始と同様の設備、經營を強制して居る、生活狀態及經濟的状況が大いに異つて居るにも係らず教材を統一し教科書を國定として劃一し、校舍、建築に至るまで劃一せしめざれば止まぬ勢である。

規模、方針、目的、方法の凡てを劃一的に豫定し、全國を率ゐて此の型に入れてしまはんとする教育は生徒も此の鑄型に入れられ、教員も否應なしに此鑄型に投せられ、學校も亦それ、其の型に押込められる、此の大層立派さうに呼ばるゝ型からは一步も手足を伸ばしてはならぬといふ極めて窮窟な教育的監獄ともいふべき空氣の中に教化が行はれつゝあるのである、此の型に最もよく適合したものは模範小學校として推賞せられ、優等兒童として賞與せられ、優良教育家、奏任待遇などと賞揚せられるのである。

教育の峯を登るには此の劃一的國道を通らねばならぬ、教育の峯を登るには斯くの如き目的と斯くの如き主義、方針の上になり、斯くの如き方法を以て擧らねばならぬ、此の型を外れて登ることは絶対に禁せられて居る、斯くの如きは日本教育の現狀である。

然るに不幸にして斯くの如き劃一的行軍に斃れる失敗者は右に左に、前に後ろに随分多いことである。

若し日本教育の現狀を畫きて一軸とせんには宜しく去勢されて衰弱せる女

性的男子を教員とし、彼の實力には不相應なる重荷である多數の子供を脊負ひ、教育國道の單調なる一本道をヨチ／＼と危い足元で辿つて居る繪であらう。而も此の教員の眼は馬車馬の如くに國道以外を見るべからざるやうに眼隠しが當てられて居る。又、その教員の口は先年の犬のやうに箝口されて言論の自由なく、不平を訴ふるに由なきやうな巧妙なる装置を施されて居る。

而も文部省といふ狼のやうな人間のやうな怪物が後ろから免職、制裁、不信任、内容充實、忠實、献身などいふ手荒い鞭を右からビシ／＼と何の遠慮もない。左うかと思ふと社會といふ暴風雨が突發して學力疑問、冷遇などいふ強風を當てつけるので不幸なる教員の足元は愈々危くなる。兎角するうち年功加俸、増俸、奏任待遇、優良教育家などいふ花火を打上げて空景氣をつけ、ほんの一時的に喜ばすといふだけで冷遇、酷使に疲れた重荷の教職には到底此の先長い壽命を保つものとは思はれないやうな氣分を偶した一面の油繪を畫いて文部省の美術展覽會へ出品したならこれ蓋近來の見物であらう!!

斯くの如き惡教育の進歩の遅いのは寧ろ當然ではあるまいか。

十、參觀人本位の惡教育

學校の設備は參觀人を驚かさんとして標本でも参考書でも教育上には使はないで、只、戸棚に飾つて置く學校が多い。

教授上の實際を見ても參觀人によく見えるやう、感心させるやうな教授法をするに苦心して居る、兒童の學藝品展覽會を見ても素人に見せて感心させやうとのみの教師の苦心が表はれて居る。

學校を參觀すると帳簿、統計の多いこと官衙、會社以上である。多くは參觀人に見せる爲めの記録、統計であるらしい。

我國の教育が形式に流るゝのは一つには參觀人本位で學校を經營するからではあるまいか!! 表面的、虚飾的、形式教育の弊は破らねばならぬ。以下章を重ねて少しくその所以を探るとしやう。

第貳章 惡二部教授

一、日本の教育と歐米の教育との比較

或賢い佛蘭西人の居るところへ、スペイン人來り尋ねて曰、現代の五大強國如何と、佛國人曰、英、米、獨、佛、西。

スペイン人が欣然として去り、その入代りに今度は伊太利人が來て同じく現代の五大強國如何と尋ねた、すると佛國人の曰、英、米、獨、佛、伊、と、

やがて伊太利人の歸つた後、日本人が來た、又問うて曰、現時世界の五大強國如何と、佛國人ぬからず答へて曰、日、英、米、獨、佛、と。

一等國民と呼ばれて日本人は欣々然として去る、其の次に來たのは露西亞人、尋ねて曰、世界の五大強國如何と、佛國人曰、英、米、露、佛、獨、と。

日本は露國と戦つて之に勝ち、戦捷に酔うて未だ醒めず、世界の一等國となりと自稱す、己惚や獨よがりも其の極に達すれば一種の愛嬌を添ゆるものである。

日本人として日本の教育は今や歐米の其れに比して何等の遜色を見ずと豪語するものがある、眞に自己の價値を知らざる如上の謙喜びの例に漏れない連中であるといはねばならぬ。

如何にも日本の教育を歐米教育と比較するに形の上に於ては左程懸隔のないやうにも感せられる、併し其の實質に就て一々點檢すれば先頃來朝した前ハ―バード大學總長エリオット博士が我教育に就て試みた批評は蓋適評として受けねばなるまい、日本の教育は著しく進歩した、それは動かぬ事實であらう。

明治六年の學校數一萬二千五百九十七、教員數二萬七千七百人、生徒數百三十二萬六千九百人であつたものが明治四十二年には學校數は三萬四千三百七十六校となり、教員數は十六萬八百七十八人に増加し、生徒數は六百六十二萬七千四百人までに増加したのである、即ち明治初年と今日とでは學校數も生徒及教員數も六七倍以上の増加を示して居るのである。

併し此の進歩は數字上の大進歩であつて、未だ實質に及ばない、未だ未だ徹底したものとは受取れないのである。

二、東京市小學校の惡二部教授

手近い東京市内の小學校を見ても随分疑問は起るのである、早い話が『東京市は市の就學兒童の全部を完全に收容し得るだけの學校を建て、居るか』といふ

簡單なる此の一問に對して悲しい哉、目下の實狀は否と答へねばならぬではないか、先づ之に就て余輩の目撃した事實を以て語らう、——事實は最有辯であるとは西諺の教ふるところであるから。

小石川區は東京市の芝區などと共に最も二部教授を多く行つて居る區として知られて居る、其の小石川林町附近には千二三百名の生徒を有する明化小學校がある、新しい學校としては林町小學校などがある。

喜ばしいことには普通教育に就て頗る餘程世間でも注意して來た、世人は自分の愛兒を就學させる學校に就て研究するやうになつた、而して心ある人は盛に二部教授を行つて居る明化小學校へ入れるのを甚だ喜ばなかつた、では林町小學校はどうであるかといふに、其の設立當時特殊小學校といふ觸込みで理髮所もあれば浴室もあるといふ具合であるから中流の人士は此の學校へ向はうとはしない、又、中流以下の江戸ッ兒などは貧民學校と聞いたばかりで怒り出し「へん、月に二十錢や三十錢の月謝などはどうにかして子供の爲めに稼いで見せる、其の爲めに貧民學校などへは入れたくはない」といふ意向が多いので設立當

時は生徒が少なくて困つて居た様子であつた。

澤山な經費を投じて此の小學校を設立したまでは先づよかつたが、區内には各小學校に收容し切れない程多い學齡兒童が居るにも係らず、此の學校へは來ない、市の當局側では生徒を此の學校へ導くに努力した、其の校長等は學齡兒童の各家庭を戸別訪問などして切りに勧誘に力めたものであつた、其れも其の管假令、殖民學校とかの校舎を買収して設立したものは言へ、林町華族町の眞中に位置した貧民學校は特殊學校として決して地の利を得たものではなかつた、又、後に及んで貧民學校にあらずと辯解するには餘りに遅かつたからである。

こんな具合で林町、原町附近の多くの住民は自己の通學區域にある明化小學校や林町小學校へ入學させるのを厭うて態々他の區へ寄留の手續などして他區の小學校へ入れたものである。

又、東京高等師範學校の附屬小學校が近いのと、大切な子供の教育に就ては月謝の一圓や二圓には代へられないといふので大分此の方面に向つた、併し、此處には入學試験があつてなか／＼はいれない、小學校の入學試験!! 義務教育を

施す官立小學校へ入れるのに選抜試験があるとは、チト變なことである、けれども事實は選抜試験どころか、其の實、入學拒絶試験といふやうな形である。

附屬小學校へ入れたい、他區で評判のよい小學校へ入れたいといふので、あれかこれかと考へて居るうちに早くも三月も過ぎて此方で望んだ適當な小學校へは入れることが出来なかつた。さあ大變、其れでは仕方がないから一時明化小學校へでも入れて置かうといふので入れやうと手續にかゝる、併し已う明化小學校は満員ではいけない、政府は一方に於て法令を以て國民に義務教育を強制しながら、さて、就學せしむべき學校が足りないといふ現状を呈して居る。

余輩の知る一例を擧げるならば會計検査院の田中浪江氏及中村修永氏は小石川區宮下町に住んで居らるゝが子供を明化小學校へは入れたくない、附屬小學校へ入れたいと思つたがもう其の時は遅く明化小學校は満員でお斷りといふ具合、仕方なしに東京市外北豊島郡池袋の小學校や、他區の小學校へ入れたのであつた。

早稻田大學教授の安部磯雄氏は曰、「子供を不完全な公立小學校へ入れて困つ

て居る、家庭では決して見聞しないやうな卑しい言語舉動を覺えて來る、人格を低下せしめつゝあるのは確かに現代の公立小學校である、自分は年來主義として平民的思想を抱いて居たものであるが、公立小學校に於て車夫馬丁の子供と席を同うせしむるに依つて子供の人格を低めつゝある事實を目撃しては、年來の平等平民主義も遠き理想に止まり、まだまだ日本の現状では到底行はれないことを悟つた。平民的思想などは必ずしも公立小學校で車夫馬丁の子供と席を並べさせなくては養成し得られぬものではあるまい、他に幾らも安全な方法はあるらう、これからは僕の子供も君の帝國小學校へお願いやう。」とて、公立小學校が多數の兒童に不完全なる教育を施しつゝあるに慊らず、且、中流以上の家庭の爲めの小學校の寧ろ必要なを説かれた。

小石川附近には斯くの如くにして入るゝに學校がないというて困つて居る父兄が決して尠くはないのである。現に余輩が小石川區に接近した巢鴨町に帝國小學校を設立するや、彼等の或者は就學させたいけれども、どこも満員で入學させることが出来ないので困る、どうかお願ひしたいと言つて來たものが六月及

七月に於て十數人に及んだ。其の頃まで彼等は就學せしむることが出来なかつたのである。何と氣の毒な話ではないか。

國民に義務教育を強ふる政府は小學校を十分に建てないといふのは何たる不都合、何たる矛盾であらう。斯くの如き大矛盾が帝都の中央に於て現に行はれつゝあるといふのであるから殊に面白いではないか。文部省は何を監督して居るのかさつぱり譯がわからない次第である。

二部教授の利益をいろくくと羅列するものがあるかも知れない。内務省の當局者は其の利益のかすくを列べ立て、居た併し二部教授は教師をして二人前少なくとも一人前半位は働かねばならぬのであるから第一に教員をして疲勞せしめ、甚だ力のない教授をなさしむるに至る場合が多いのは争はれない。教育實際家の天才ベスタロッヂ先生ですら未だ二部教授をなし得とは自信しなかつたやうである。況んや其の邊の教員達に二人前の仕事が立派に出来るといふものがあるかしら、あらば手腕のほどを拜見して大いに尊敬したいものである。

又、二部教授の制による午前の組は先づよいとしても、午後始業の組に當つた兒童はどうであらう。今日は午前十一時の始業、明日は十二時始まり、木曜日は一時から、金曜日には零時半の始まりなど言はれては始業時間の一定しない爲めに食事の時間はだらしなくなる、子供の腸胃を害するには最も適當であらうが、兒童及父兄の迷惑は察するに足るであらう。

假令始業時間を毎日十二時若くは一時といふやうに一定したところで、午前中の方が午後よりも精神活動が活潑である、従つて教育、教授を施すに最適當なる時間であるといふ心理學者が一致して居る定説に反して精神活動の最活潑な、一日中教育上最良の午前中を放任して徒らに遊ばせ、稍疲勞し初めた午後に於て教授しやうといふのであるから兒童心理學上極めて不都合なことである。こんな不都合極まる二部教授を以てしては到底我小學校教育の實績は擧がるものではない。

成る程二部教授は教室及教員を二重に使用し、教室及教員の數に對して教育し得らるべしと兒童數の二倍を教育し得るといふ頗る經濟的な制度である。併し

幾ら經濟的な制度でも結果が思はしくないのであるから國民教育の上からいへば、斯くの如き姑息的な拙い制度は排してはしい。而も他に幾らも經濟的に小學校を經營する道はあるやうである。

心ある東京市民が二部教授を施す小學校へ自己の愛兒を入學せしむることを拒んだといふのは決して無理のないことである。余輩は教育に熱心なる市民が漸く頃ろ思を此の點に致すやうになつたのを、國民が教育に對する覺醒の曙光として大いに喜びたい。

三、本末の顛倒

要するに二部教授などいふものは財政の頗る困難なる秋に於て止むを得ず取るべき最後の面も一時的姑息の拙制度たるを免れないのである。

例へば戰時であるとか、或は不慮の天災に遇つた爲め、或は到底教育費の負擔に堪え難い地方に於てのみ一時的に取るべき拙手段なのである。

然るに東京市は目下何等の天災にも遇はず、二部教授をやらねばならぬ程に財政上窮して居るものとは受取れない、又戰時でもない今日何故に二部教授ま

でしなくてはならぬ憐むべき状態にあるのか余輩の淺學なる其の理由を探るに寧ろ大いに苦まざるを得ない次第である。而も東京市が芝區にしても小石川區にしても敢て不名譽なる二部教授をしなくてはならぬ程に教育費の支出を拒んだといふが如きことをも未だ耳にしたことはない。

然らば東京市現在の財力を以てすら、尙ほ其の小學校に於て不完全なる二部教授をしなくてはならぬといふのは實にお氣の毒な次第であるといはねばならぬ。

辯ずるものあり、東京市の人口は年々増加し、學齡兒童も年々に増加し、到底其の増加に應ずるだけの新小學校を増設するの財力なし、又、止むを得ざるなりといふものがあるかも知れない。併し運動場をアスファルトにて固める金があるならばアスファルトを赤土のタ、キ乃至はコンクリート位にて我慢し以て二部教授の小學校を一校たりとも廢止すべきである。

石造の門や煉瓦の垣塀を止めて生垣位に節約し以て二部教授の一部を廢するの策に出づべきではあるまいか、ペンキを塗る代りに必要なる教員を雇入る

ることである。外觀を飾る建築や設備を節し以て二部教授を全廢すべきである、必要に應じて小學校を増設すべしである。

然るに東京市の小學校は不經濟な經營と贅澤な建築と設備をしながら不名譽、不完全なる二部教授を廢し得ないといふのである。美服を纏つた乞食が飢を叫べるにも肖て誰か其の本末顛倒の醜態を笑はないものがあらうぞ。東京市が若し此の不都合なる二部教授を廢し得ずして如何に外觀華麗を極むる小學校を建築したればとて其は畢竟貧民の身分不相應なる虚榮服に過ぎないものとして寧ろ吾人は之を見ることに依つて一種の不快を感せしむるといひたい次第である。

第參章 贅澤なる日本の小學校

日本の小學校は我國の民度に比較して其の規模、經營の方法共に稍贅澤に失した嫌があるではなからうか。

第一校舎の建築を見るにどんな寒村僻地でも立派な建物はと言へば屹度小

學校にきまつて居る。民度に不相應な校舎の建築が先づ吾人の視覚を驚かすのである。余輩は其の都度國民の教育に熱心なるを思ふと同時に一種の不快を感せずには居られない。斯くの如き國民の信頼に對し果して我國の教育が遺憾なく其の職責を盡して居るかを省みて何だか眞面目な國民に對して申譯のないやうな感じもするのである。又、民度に不相應な小學校の校舎は要するに貧民の虚榮服を着けたのと同様に寧ろ人に不快の思ひを與ふるに過ぎない。

教育費の負擔に苦む地方では必ずしも一樣に瓦葺の校舎にしなくとも板葺乃至はトタン屋根で澤山であらう。トタン屋根の教室では本統の教育は出來ぬといふ理由もあるまい。雨天體操場の如きは藁葺を以て足れりとすべきである。校長の手腕一つで身を以て範を示すならば随分教員や生徒を督勵してもつと學校の爲めに働かせることが出來やう。又、やり方では三人小使を使ふところを一人乃至二人の小使で足らしむることも出來やう。

現行六ヶ年の國民義務教育を五ヶ年に短縮すべしとの議論が出て、一時議論に花を咲かせたやうであつた。併し、恐らく教育の實際家は其の無暴を嗤はざる

ものはなからう。又、教育の理論や理想から言へば四年を六年とし、六年を八ヶ年に延長するといふにこそ賛成すれ、短縮に同意するものはなからう。然らば此の問題は所謂財政整理、節約制度の餘波が飛んで來たものと見てよからう。併し、一ヶ年の國民教育を短縮して得るところの經費は僅かに五十萬圓に過ぎないと、は文部省側の言ふところである。果して五十萬圓位の節約に過ぎないならば小學校の經營を今少し節約すれば優に五十萬六十萬の金は出て來るやうに思はれる。先づ其の贅澤な點に就て述べて見やう、以下述ぶるところは確かに節約し得るところである。

一、校舎

文部省が嘗て發布した設備準則などは何等民度を顧みない贅澤に失した見積りといはねばならぬ。勿論今日では此の設備準則は廢止されたけれども、小學校設立には今も尙ほ大いに此の標準を参考とするのであるから小學校を贅澤に流れしめた罪は確かに文部省の此の設備準則が大いに責任して居るものといはねばならぬ。

小學校の校舎は民度に則るべきである、煉瓦造りにも及ぶまい、赤松で足れりとすべきところに樅を用ひ、杉でよいところに桤を用ひ、檜などを使ふから坪三十五圓乃至四十圓で出來る校舎の建築にも五六十圓以上を費して居るのである。三十年程の耐久力でよいならば、無節の板や五寸角の柱にも及ぶまい、寧ろ眼に見えないところに金を入るゝわけではあるが地形に奮發して強震の豫防をした方が賢い。

校舎は質素にして堅牢を主とすべきであるのに外觀の美を競ひ自然に贅澤に流れ民力に不相應な建築費を計上して良民に重税を課して苦めるといふに至つては名を教育の美名に藉りて國民を陥るゝものといはねばなるまい。

二、講堂及雨天體操場

講堂は毎日使用さるゝものではなく、儀式のときに必要なのであるから雨天體操場で講堂の用を兼ねしむることが出來る、民度の低い地方の學校は殊更に講堂を設けずとも雨天體操場若くは二三の教室を取廣げて使用するやうにすれば講堂の建設の爲に町村税を高めて良民を苦ましむるに及ばないのである。

又、雨天體操場の如きはトタン屋根にすれば坪十圓以内で出来る窓を入れても十五圓内外で出来やう。雨天體操場の如きは農業地方では藁葺とし、生徒の父兄をして藁を持來らしめ之を葺かせるといふ具合に藁の材料と勞力とを寄附せしむるやうにすれば最も簡易に出来る。彼等の材料と勞力とを以て造られた校舎は更らに貴ひではないか、多大の工事監督費を拂ひ、弊害多き請負制度でなくてはならぬことはあるまい。

運動場や雨天體操場をアスフワルトにすることが流行して來た、けれどもコンクリートが子供の靴に響いて衛生に害があるといふならば先づ第一に道路から大改良をしてかゝらねばならぬではないか、歐米の都市の道路のやうに人道が全部アスフワルトになりし曉には小學校の運動場もアスフワルトにする必要があるかも知れないけれども、雨の日雪の日には沼のやうな日本の悪道路を通つて來る子供の爲めにはアスフワルトを要しない。アスフワルトに一坪十五圓、二十圓出すよりはコンクリート、タ、キ若くは厚板ばり位のところにて安上りにして置くがよい。又、便所の屋根などはトタンで澤山である。

三、垣根

都市の小學校では往々一間十圓以上も出して煉瓦や石造の塀を以て圍んで居るのがある。煉瓦や石とまでは行かずとも一間四圓五圓を出して板垣とし、ベシキを塗るといふ具合である。これなども確かに贅澤である。著者が設立して居る帝國小學校ではバラの生垣である。其の費用は一間六十錢であるから百間六十圓で四方全部の垣根を作らしたためたのである。然るに煉瓦や石にすれば千圓仕事、板垣にしても四五百圓を要するところであつた。

小學校の垣根は煉瓦、石、板、トタン等の不透明な垣根を作る必要は斷じてない。何となれば小學校を設立するに當つて敷地の選定には十分の注意あるべきで、料理屋、待合、病院、監獄等の非教育的なもの、周圍にないところを選定して設立されたものである。然らばその小學校の敷地として認可されたところの土地は教育的な土地であらねばならぬ。その教育的な周圍に何を苦んで高い金を出して不透明な垣根を作るのであらう。

學校は社會をそれほどまでに恐れなくてはならぬものであらうか、それほど

敬遠しなくてはならぬのであらうか。斯くの如きわからないことをするから教育はだん／＼社會と没交渉になり、實用に迂遠になり、學校は教育的監獄といふやうな鹽梅式になるのであらう。社會的に活教育をしたい、實際的、活動的教育をしやうといふならば、宜しく贅澤な而も不透明な垣塀を徹廢すべしである。

若し小學校の周圍を生垣位に止めて通行人をして眼前に教育の實際を見せしむるならば、確に何の勞力、費用も入らない通俗教育——社會教育ともならう。此の方が遙に文部省の金の懸つた一片の通俗教育よりも有效である。

四、屋上運動場

都市の地價は高い。大都市の地價の高い所では、生徒一人に就て一坪は愚か三人に對して二坪の運動場さへ取れない。斯の如き都會の小學校では宜しく紐育の小學校のやうに屋上運動場ルーフガーデンを設くべしである。これは何の雜作もない事で、屋根の瓦を廢して平坦にブリキかトタンで葺かせる其上に子供を運動させるといふのである。盆栽などを周圍に置いて子供をして此のルーフガーデンを整理せしむる時は大に運動場を屋上に廣めることが出來て頗る經濟的方法である。

五、フランク

普通にフランクを作るには二本の柱の間に二人前のフランクを懸けるのである。それで高價な費用を拂つて居るのである。併し、若し著者の設立した帝國幼稚園用のフランクの如きものを作らば其の三分の一位な費用を以てフランクを作る事が出來る。即ちその仕掛は柱三本を用ひ第一柱と第二柱との間に二人前のフランクを懸け、第二柱と第三柱との間に二人前のフランクを作る事が容易である。

幼稚園や小學校では低いフランクの粗末なのでよいから數あつた方がよいのである。幼稚園用ならば六圓内外で以て四人前のフランクを作ることが出來る、小學校用のフランクとても十圓以内で四人前のフランクを作ることが出來るのである。これを公立小學校などに作つて居る外觀のお體裁にばかり金をかけて二人前のフランクに三十圓も五十圓も費すのは愚な話である。

六、ストーフ及スチム

東京の某小學校ではスチムを通して贅澤を極めて居るのがある。ストーフ

は已に普通になつて敢て贅澤と呼ぶものがないやうになつた併し、これも國民の生活程度に相應して然るべきであらう。歐米のやうに電車の中に於てもスチーム通じ、家庭に於てもスチーム若くはフワーネス、乃至はストーブで温めて居るところでは小學校に於てもスチーム、フワーネス、ストーブを用ふる必要もあらう。然るに日本の家庭に於て火鉢、炬燵が普通で、中流以上の家庭でなくてはストーブは用ひて居ないのである。然らば日本目下の小學校の温室法は火鉢を用ひて足れりとすべきである。殊に内地の氣候は幸にしてストーブがなくては子供が凍死するといふ程でもないのである。子供は決してストーブなど歓迎するものではない。小學校及幼稚園に於けるストーブや火鉢は子供の爲めに必要なにはあらずして子供の親や教師が老婆心で寒からう必要とあつて寧ろ親の爲めに必要といふやうな奇觀を呈して居るのである。

火鉢はストーブよりも衛生に害ありといふかも知れない、而も小兒衛生からいへば火鉢もストーブもない方が更によからう。徒らに衛生呼ばはりをしてだん／＼國民の身體を虚弱にしつゝある現代の教育家は、少しく寒稽古的に身體

を鍛えた古武士の修養を積むべきである。衛生とばかりで餅も喰へない國民や、團子もたべられない今桃太郎の養成などは決して歓迎すべきではあるまい。

七、標本及圖書其他の設備

日本の小學校を見ると博物の標本などに澤山な金を投じて教授上之を利用する事かと思ひの外、戸棚の中に徒らに塵を浮べて居る、生徒は見たこともない、萬卷の書を藏して小圖書館の觀を呈し、なか／＼金がかゝつて居る學校の參考書を見ても新刊の書物などには手垢もついて居ない、教員の修養しない、讀書しない何よりの證據である書物棚に並べ飾られてあるといふばかりである。

標本や書物は裝飾として備へ附けて置くべき物ではなからう、生徒にも見せず教授上應用しない標本を飾るに高價な支出をなす町村長の好人物よりは校長の罪を責めねばならぬ。讀みもしない書物に金をかける必要はなからう。教育上利用されない以上には高價な標本、參考書は斷じて小學校に必要はない。又、小學校の備へて居る標本、書物の中には到底小學校として備ふる必要を認められない様なのが麗々と飾りつけてあつて、參觀人の眼を驚かすに力めて居るかの

やうに見受けられる、其の教育費を支出する教育に素人の國民こそ迷惑である。民度の低い小學校ではピアノに五六百圓も出さなくとも五六十圓乃至百圓の風琴で事足りるとすべきである。

生徒用の机及腰掛がだん／＼華美なものを用ふるやうになつて金は高くかかつて其割に長持がしないのが多い。是を贅澤な机といひ腰掛といふのである。

八、經營

經營の上から言つても今日の小學校は随分贅澤な、そして不經濟な經營をやつて居る。今後の小學校長は今少し經營の頭ある者を任用しなくてはなるまい。小學校ばかりでなく、中學校でも師範學校、大學、高等師範學校でも毎會計年度末近い二月、三月、四月に亘つて教員の視察、參觀、出張、旅行の多いことは實に驚くばかりである。用もないのに殊更に旅行したり、出張したりして豫算に計上せられた金を残しては罰があたるといふのであらうか!! 残つた金は學校の基本財産として貯ふるも妙、其の他學校に必要な備品を購入するもよからう、何も二月頃にはた／＼と使つてしまはなければならぬといふこともあるまい、この

年度末に於ける校長や職員の旅行、出張等は確かに教育費の節約し得べきことを事實に於て證明して居るものと見てよからう。贅澤な經營、不經濟な經營をして居る何よりの證據である。一錢の經費も國民の汗より絞つたものと思へば良心ある教育家は年度末旅行などと浮れては居られない筈である。良心の鈍い斯くまで平氣で不都合をやり、良民を耻しむる教育家が多いことは我教育界の禍であるといはねばならぬ。

九、小使

若し校長が箒を手にするならば教員は雑巾を持ち、生徒は自分等が落した紙屑を拾つてまはるであらう。運動場の雑草は生徒の手によつて引き取られ、運動場の雪は生徒と教員が協力して掻き除けるであらう。然らば五人の小使を三人に減じ、三人使ふべき小使を善良なる一人の小使を以て用を辨じ盡すことであらう。斯くて生徒に勞作、自治、節儉を實行せしめ、此に活きた本統の道德教育を行ふことも出来るのである。

然るに今日の小學校は校長や教員が雑巾など手にしては權威、威信が下ると

心得て居る、雑巾や箒を手にした位で教育家としての權威が下るやうな師範教育は安つばいものといはねばならぬ。今日の小學校はだん／＼お役所風に流れつゝあるので小使なども追々多く雇入れ、悪い小使は學校を利用して悪事を働くといふやうな弊害を出すやうになつた。今後學校の小使に就ても大いに研究されなくてはならぬ。斯くて良民の教育に期待する眞心に報いねばならぬ。然らば一錢の浪費をも之を謹まねばならぬ次第である。

第四章 小學校に無理なる四十五分間授業

一、疲勞の問題

疲勞の問題に就ても教育上随分いろ／＼と議論されたやうであつたが今も尙ほ依然として新しい未決の問題であるといはねばならぬ。

兒童の疲勞は教育上甚だ危険である、早く之が救済の道を講じなくてはならぬ。教授に興味あらしむること、或は教材を變化に富ましむること乃至は教材の狀態に就て個人的に注意すること其の他生理衛生の方面より注意しなくては

ならぬことも必ず多いであらう。

併し尙ほ此の外、授業時間の長さが兒童の疲勞に大なる關係を有つて居ることに注意しなくてはならぬ。授業時間が兒童の能力には不相應な程長過ぎるときは兒童は自然と疲勞を生ずるに違ひないのである。

全體授業時間の長さなるものは學者の一家言を以て之を定め、法律家が之を取つて規定し法令となし之を學校に強ふるが如き性質のものではなからうと思ふ。授業時間の長さは嚴密に言へば兒童の年齢、心身の狀態、能力の程度等に應じて必ずや大いに斟酌せらるべきものである。

二、教授時間の長さの問題

我國の小學校で授業時間はどう規定し又、どういふやうに行はれて居るであらうか。

文部省の小學校令によれば尋常小學校では一週の教授時間が第一學年に於ては二十一時、第二學年に於ては二十四時、第三、四學年に於ては二十七時、第五、六學年に於ては二十八時間(女兒三十時間)と規定されて居るのである。

普通は此の一週の教授時数を一週六日に分配して、一日の教授時間四時若くは五時を得るのである。即ち毎日四時若くは五時宛教授すればよいと定めて居る。而も一時の授業時間を四十五分とし、毎時十五分間の休憩時間を設けて居るのである。

斯くの如く授業時間の一時を四十五分間授業十五分間休憩とすることは殆ど全國の小學校が一律に行つて居るのである。單に全國の小學校のみならず、全國の中學校でも、高等女學校でも、亦斯くの如く區分して教授しつゝあるのである。

然るに此に最をかしいことには教授時数の一時を四十五分間にするといふことは文部省の小學校令にも施行規則にも何等の規定が發布されて居ないことである。尋常一學年に於ける毎週の教授時数は二十一時とす、但し一時は四十五分間の授業とす、云々などいふ法文は何處にも見當らないのである。

然るに全國の模範小學校を以て自任する附屬小學校の尋常一學年に於ても矢張り四十五分間授業の十五分間休憩、田舎の小學校でも然り、都會の小學校も

左う、チャンと各學校で勝手にきめてやつて居る。而して教育家達は之に就て敢て何等の疑問をも抱かない、誰が之をきめたものか一向にわからない。

小學校令中の教授時数一時といふのは一時間の意味であるか、或は教授する時間の一度といふ意味なのであるかわからない。恐らく一時間の意味であらうと思はれる。若し法令中の教授時数一時を一時間と解釋するならば全國各學校がやつて居る四十五分間授業は十五分間宛不足に教へて居る譯なのである。つまり各學校では毎時十五分間宛横著して居ないわけなのである。而も文部省は全國の學校教員が毎時十五分間宛横著をして居るにも係はらず之に就て何等問責もしないですまして居る。近來實に怪しからぬことではないか。

三、小學校は生徒一人に就て千六百時間餘を横著せり

此の十五分は僅少であるといふか否、余等は此の十五分の決して僅少な時間ではないと思ふ何となれば次の如く計算すれば實に小學校では一人の生徒に就て少なくとも千六百五十時間の横著となつて居るからである。

毎日の授業時間が五時として毎時十五分間宛横著されるのであるから毎日

正味一時間の損は毎週六時間の損失となるのである。これが尋常小學六年を卒業するまでにはどれだけの損失となるであらう。小學校の休業日は一學年九十日を越ゆるを許さないといふのであるから、どうしても一學年二百七十五日はある筈である。然らば一學年間には二百七十五時間の損失であり、尋常小學の六年間には生徒一人に就て實に千六百五十時間の損失となる勘定である。この千六百五十時間は實に中學校若くは高等女學校に於て一學年の課程を修了し得るだけの時間ではないが。

斯く論じたからとて余等は打續けに正味一時間の授業を主張するものではない。又、十五分間の休憩時間を不必要なものであると叫ぶものでもない。唯、お役所風にとこまでも法文を楯にとつて即ち現行小學校令施行規則の解釋を試みたまでである。而してそれが決して實際に行はれて居ないことを述べたまでに止まるのである。

四、小學校の四十五分間授業は亂暴

日本の小學校では尋常一學年に於ても四十五分間つゞけ様に教授して居る、

中學校でも四十五分、高等女學校に於ても四十五分間授業である。

つまり、滿六歳になつたばかりの小兒にも四十五分間授業、二十歳前後の中學生、女學生に對しても矢張り四十五分間授業、三十歳にも近い大學生に對しても四十五分間授業である。何事も劃一を喜ぶ文部省のことであるから此れ位な劃一は平氣でやらせて居るのである。

一體常識を以て考へて見ても六歳か七歳の三尺の童子にも、二十歳、二十五歳過ぎの青年に對しても同様に四十五分間續けて教授することの亂暴であることはわかり切つて居る。

然るに全國の小學校を見るに尋常一、二、三年位の幼年級では四十五間の長きに第一教員が倦怠して居るではないか。生徒は欠伸の連發をして居る。教員は欠伸をかみ殺して四十五分の鈴の鳴るのを時計片手に待ちに待つて居るといふ有様なのである。斯く如き倦み切つた教室内の空氣は何物を傳ふるとも恐らく印象するところは浅いことであらう。こんな倦み疲勞して居ても尙ほ四十五分の鐘の鳴るまでは徒らに生徒を教室内に止めて置かねばならぬとは日本の

小學校は教育的監獄であるといはれても之に對して答ふるの辭はよもあるまい。

吾々成人した大人でさへ左うではないか。一時間の演説を聴くには餘程演者が雄辯であるとか、或は演説そのものに深い興味がなくては到底終始注意を—にして居ることは困難である。

余輩が中學校の一年であつた頃、漢文の教師から四十五分間砂をかむが如き、當時の吾々には一向無味乾燥なる講義には他の多くの學生と共に授業の中途にて欠伸をかみ殺し、さては眠氣を催したことに今に記憶に残つて忘れはせぬ、況んや未だ未だ注意力の發達しない六七歳の幼兒に向つて四十五分間やられてはたまつたものにあらず、之を無理といひ亂暴といふのである。

斯くの如き無理、亂暴な不親切な取扱を受けて居る兒童こそ誠にお氣の毒な次第である。斯くしてだんく、教育の力で却つて國民の腦を悪くしつゝあるので、不都合極まることである。

斯くの如き無理をして自ら悟らざる小學校教員の無知、殘酷よりも、之を不問

に附して氣附かず己惚れて獨りよがる文部省の間拔た態は再と見られた圖ではあるまい。

斯くの如き無理、亂暴な取扱に慣れて居るものは自分で作つた劃一制度によつて自體を滅ぼし、普通教育の名實之に伴はざるをも自覺し得ない近眼者流で實に淺ましいものであるといひたいのである。

五、ロウ博士實驗の結果

ロウ博士は之に關する實驗を記して曰く、

『子供の疲勞を防ぐにはどうしても短時間授業にしなくてはならぬ。五歳より十歳迄の兒童には十五分間以上の授業をつやけてはならぬ。七歳より十歳までの兒童に對しては二十分間以上の教授を續けてはならぬ。十歳乃至十二歳の兒童に對しては二十五分間以上の教授をするのは亂暴である。十二歳より十六歳までの兒童に對しては斷じて三十分間以上の授業をつやけてはならぬ』と述べて居る。

若し此の實驗をして果して眞であるとするれば尋常一學年に於ては十五分間

授業、尋常二學年より四學年までの兒童に對しては二十五分間授業、中學校及高等女學校の四學年までは三十分間授業とせよといふのである。

この頃、アメリカの實驗心理學者などは精密な器械を備附けて九歳迄の兒童は到底二十分間以上同一事物に繼續して注意を集中する能力がないといふ實驗を發表したのがある。米國の小學校及中學校の一、二學年では普通二十分間授業、二十五分間授業などが行はれて居るやうであつた。

拙いクドク、しい長談議よりも寸鐵殺人的の警句一語の方が遙かに印象するところが深いやうである。四十五分間もダラ／＼と一向煮え切らないダルな講義を聴くよりも十五分間位でシャープな力の籠つたお話の方が遙かに印象せらるゝ分量が多いであらう。

小學校に於て四十五分間教授するとしても此の四十五分を二分して初め二十五分間教授して一寸休息せしめ、更に二十分間教授して、又、休むといふやうにすれば一向法文上、習慣上差支はないやうにおもはれる。四十五分間續けざまに授業することは到底亂暴であるといはねばならぬ。斯くの如き無理な教授は

國民の腦を不健全に盛に低能兒を養成することゝなるであらう。

又、休憩時間は兒童の疲勞を恢復せしむる爲めに必要なのであるから此の點に注意しなくてはなるまい。即ち疲勞が果して教授するうち時間と共に其の度を増して來るものとすれば第一時には十分間休憩、第二時には十五分間休憩、第三時には二十分間休憩、第四時には二十五分間休憩もいふやうに朝の始業時間當時よりも追々に休憩時間を長くするといふことも必要であらう。要するに此の教授時間の長さの問題とか、休憩時間の問題の如きは實に教育實際家の忠實なる研究に待つて決すべきものであらねばならぬ。

六、日曜日は廢し得べきか

各學校の日曜日の休日を利用して平日の如く授業し、日本の習慣に近き毎月一日及十五日を以て定期休業日とすべしと説くものがある。

如何にも斯くすれば教育上、學習上經濟でもあり、又、日本の社會に於て多くは日曜日は安息日でもなく休日でもないのであるから折角の日曜日も家庭に於て家族と共に休養することも出来ないのが多いやうである。

併し、兒童の能力、疲勞等より考へて果して日曜日の休日を廢止して兒童心身の發達に無害であることが確實に生理及心理學上より證明されるまでは如何に習慣的に便利であり、又、經濟であるとも俄かに之を廢止することは出來まい。貧民とか下層社會の兒童を教育する公立學校及特殊小學校などに於て日曜日を休日とすれば兒童は不良なる家庭及周圍より惡感化を與へられ、却て教育上不都合であるといふならば日曜日も平日の如く學校へ集めて復習などを課し、遊戯せしむるなどは或は然るべき處置であるかも知れない。併し、アメリカの小學校などは水曜日は半日授業とし、土曜日及日曜日の二日を休業するものが多い。

米國人は一般に時間の觀念が明瞭である。日本人などは未だ未だ時間の考が漠然たるものが多い。

遊ぶ時間と働く時間を明かに區別することが第一に必要なものである。教育上でも遊び半分の學習は感心したものではない。歐米人は働く時間には、禁煙、雜談、禁で側眼もふらず命がけて働く、器械が前に動いて居る。人間も器械につれられ

て一種の器械となつて働かねばならぬ、その代り休息の鐘が鳴れば此の一針で縫ひ終らるべきものも打捨て、休むといふ具合である。然るに日本人はのらくらとして遊び半分の仕事のやり方である。日本人の十時間の勞働よりも歐米人の六時間の勞働の方が仕事の分量に於て多い様である。

時間及職務に對する明白なる觀念を國民に植附けるには教育者から用意してかゝらねばなるまい。此の時間及職務の觀念の明白なることに就て感心したのは米國の小學教員のことである。

米國の小學教員は五分間遅刻しても月給を日割にし、日割を時間割にして五分間に相當する給料を差引いて支給されるのである。

一ヶ月以上に亘つて病氣缺勤するときはその月の休業日の數を計算する、土曜及日曜が八日、之れに國家の祝祭日が二日ありとし、十日間は公の休業日である。此の教員の体給が百弗であれば三十三弗三十三仙を支給せられるのである。假令病氣でも他の教員が汗を出して働いて居る二十日分の給料はやらない、只公の休み日である十日間だけ日割として支給するといふのである。

又、女教員が結婚すれば辭職することになつて居る、其の理由は女教員にして結婚すれば家庭の人となり主婦としての任務を生ずるが故に教職に對して盡す精力を若干殺がるゝことになる、斯かる教授力の限定された既婚女教員を雇ふよりも女子大學出の若い精力の十分な野心多き新進の女教員を採用した方が國家の利益であると考へて居るのである、斯くして新女教員の爲めに道を開き一種の巧妙なる老朽陶冶を行つて居るのである、例外としては良夫に死別れたもの及結婚した女教員と雖も良夫の収入を以て一家の生計を立つるに不足を生ずるものは良夫の雇主、會社長、官衙等よりの収入證明書を添へて願出づれば將來増俸しないといふ條件の下に原給のまゝで採用されることになつて居る、有夫の女教員は他方に於て主婦としての輕からざる任務を有するが故に教授力の限定されて居るものであるから増俸するの必要はないといふのである、未婚の女教員は毎年その働振りによつて俸給の一割乃至二割を増俸されるけれども、有夫の女教員は此の特典がないのである、

斯くの如く職務及時間に對する觀念が明白である上に米國では十中八九ま

でが女教員であるから『男子と同一の仕事をした女子には男子と同一の報酬を支拂ふべし』といふ男女教員俸給均等案を年々女教員どもが議會へ提出する所にも推察され得るであらう、

日本の小學校に於ける日曜日、休日の制度は此の學習する時間と休養する時間とを明白に區別せしむる點に於ても大いに必要であるといはねばならぬ、

第五章 疑はしき道德教育

一、英國の實際的道德教育

先年余輩が英京倫敦の一小學校を參觀したとき、其の校長が『菊池男爵の講演や著書によつて日本の道德教授のことを承知しました、併し、何等の飾りのないところで、本統に十分の効果が表はれて居るのでせうか』と、尋ねられた、

此の穿ち得た質問に接したときには余輩も大いに面喰はざるを得なかつた、然り大いに効果を收めつゝあり、と答ふるのは何だか日本の道德教育の現状を知る余輩には自分の良心が許さない、何となれば校長は何等の飾りのないところ

ろでといふ點に特にエンフワサイズして言つたから、嘘氣たつぶりな外交的辭令や誇大なる返答は此際我同盟國の教育家に對しては大の禁物であらうと心得たからである。

そこで、余輩は『然り貴説の通り、盛んに教授して居る』と、極めて不得要領な一向答辯にならぬやうな返答をしてお茶を濁さうとした。

然るに校長は滔々として次のやうなことを言つてきかすのであつた。

『ソクラテースやアリストートルの昔ならいざ知らないこと、此の頃の新しい心理學の教ふるところでは道德は口先で教授し得るものではないといふに一致して居ると信ずる。』

若し日本の小學校や中學校で道德を教へ得たりとすれば其れは學課として教授したものであらう、道德ではなくして倫理學の斷片ではなからうかと思はれる、道德教育は口先ばかりでなく、直接行爲に觸れしめなくては駄目であらう、道德的行爲は習慣とならなくては安心が出来ないのであるから耳からのお説教だけでは未だ以て到底満足は出来ないことであらう。

常識を以て考へても左うではないか、早い話が、英國の小、中、大學では道德を教授して居る學校はないのである、唯大學程度では倫理學を科學として教授するだけのことである、然るに日本では小學校から大學に至るまで五年十年といふ長い間道德教授を續けて居るといふのである、然らば日英兩大學の卒業生の徳性如何を比較して見やうではないか。

日本は道德教授を續けて來たのであるから日本の學士は君子人、英國は道德教授をしなかつたから英國の學士は日本の學士に比して著しく道德の點に於て劣つて居るであらうか、そんな大體論は出来ないであらうと思はれる、英國では日本の如く學校に於て道德教授をしないからとて紳士がないといふことはあるまい、敢て日本の君子人に劣らないのも多からうと思はれる、然らば道德教授に長い教授時間を費して居る日本の道德教育の結果は何處に表はれて居るのであるかさつぱり吾々英國の黑人には判斷が付き兼ねる次第である。

併し、英國に於ては教室では成る程道德教授はしないけれども實際の道德教育には余輩大いに苦心して居るつもりである、余輩の考では教室は主として

知識及技能を傳達せしむるところであらうと思ふ。又、教室内に於ける二十分なり三十分間は行儀よくしてあれといへば、随分生徒は行儀よく勉強するものである。それで教室内では道德教育を行ふ機會は寧ろ少ないといはねばならぬ。

近世の學校は何處の學校でも、校舎の二三倍の廣さを有する運動場を設けて居る。此の廣い運動場は何の爲めであらうか、決して無意味なものではなからう。英國の學校の運動場は實に屋宇のない道德教育場であると心得て居る。此の運動場から幾多の英國紳士及淑女を輩出せしめたものである。

休憩時間には活きた實際的道德教育を施す時間である。見給へ、休憩時間には教員どもは血眼になつて生徒を誘導するに力めて居るではないか。若し運動場の一角に於て二人の生徒が喧嘩するよと見れば教師は此の二人の方へ走つて行く、そして徒らに喧嘩をするやうでは到底紳士にはなれまいと、やるのである。英國の子供に對して紳士になれないといはるゝ一語はピリツと頭にこたへる權威を備へて居る。此の活教訓は當事者二人に對し最も痛切なる感じを與へるに相違ない。再び喧嘩などなすまじと堅く心に誓ふのである。又、之を見て居る周

圍の生徒等は今眼前に喧嘩でふ行爲を目撃しての上の教訓を聞かされたのであるから此等も亦我身に引較べて痛切に感銘するであらう。斯くして英國の道德教育は實際的に著々と其の効果を收めつゝあると思ふのである。』

二、日本の口先道德教育

余輩は英國小學校長の述べた如上の痛切なる言論、實際的道德教育の苦心談を耳にして實に愉快に感じた。歸朝以來此の批評に注意しつゝ、日本の小學校の現状を観るに力めた然るに教師は修身の時間に於て教育勅語の『朋友相信し』に就て教科書により最巧妙に教授して居る。教室では子供等は成程朋友相信じななくてはならぬものと首肯させて居るかの様である。併し一たび十五分間休憩の鐘が鳴り渡ると子供等は先を争つて運動場へ急ぐ。忽ちのうちに彼方此方で大喧嘩が數分間を出でずして此の運動場で行はれて居るのである。然るに教師はといへば教員控室で他の先生等と雑談に餘念なし、煙草を吹かす、湯茶を飲む、新聞雜誌なんかを見て時々下らぬ話に花を咲かせ、時としては教員室の笑聲の高

きに運動場に悪戯しつゝある生徒をして一時ハッと驚かす事さへあるといふ具合で、教員等は運動場に於ける實際的徳育などには眼もくれない、丁度四十五分間の教授請負人といったやうな形である。これでは到底日本の小學校に於ける道徳教育の實は擧がるものではない。

運動場に於ける監護といふやうな聲に應じて小學校によつては休憩時間中一人若くは二人の教員が當番として交代に運動場へ出て居るところもある。併し千人以上もある多数の生徒がガヤ／＼と騒ぎ立て、居る中で二人の教員の眼は僅かに四つである。其の取締監護の心細いこと到底お話にならぬ。多数に不完全なる教育を施しつゝある我小學校の前途は蓋禍多いことである。

『幼稚園へ通はせて居る間はお行儀がよかつたが小學校へ入れてからはどうも格別悪くなつて困ります。』といふ父兄の嘆聲は不幸にして余輩が往々耳にするところである。

其の原因は何であるかといふのに小學校に於ける道徳教育の無能といふ點にあるやうに思はれる。幼稚園は定員が百五十人位しかないけれども小學校で

は千人以上もあるのが多い、而も此の多数の生徒に不行届な不完全なる教育を施しつゝあるからではなからうか。

又幼稚園では保姆一名の受持園兒数は法文には四十名に限定されて居るけれども普通では二三十名しか受持たせない、四十名を二人の保姆が受持つところも多いやうであるから小學校の訓導が一學級七十名内外の多数の生徒を受持つに比すれば餘程行届くべきであらう。

幼稚園の保育時間は一時間中十五分間であるけれども、他の四十五分間は運動場若くは雨天には遊嬉室で遊ばせ、此の間も保姆は附添つて居る、即ち幼稚園の保姆は二三十人の受持園兒に就ては休憩中と雖も、決して眼を離さないのである。運動場に於て本統の保育をして居るのである。小學校の教員が生徒を運動場に放任して毫も顧みるところのないといふやうな無責任にして不親切なる教育に較ぶれば幼稚園の教育は親切であり、又責任を果して居るやうである。従つて小學校よりも幼稚園の方が本統の活きた實際的道徳教育が行はれて居るのである。而も小學校に入るに及んで無責任に放任される、これでは確かに現今

の小學校は幼稚園出の小學生を改悪しつゝあるといはねばなるまい。小學校の教育は此の點に於て大いに幼稚園の教育法及英國の小學校に學ぶべき點が多々あるやうに思はれるのである。

三、修身教授の教員選定

道德教育をして効果あらしむるには學校に於て修身教授の任に當る教員の選定に注意すべきが肝要であらう。

今日普通に行はるゝところでは小學校に於ける受持教員がそれ〴〵修身を教授し、稀には校長が擔任して居るやうである。

又、中學校、高等女學校に於ては教頭若くは倫理、修身の免許狀を持つて居る教諭が修身教授の任に當つて居るやうである。

併し、校長は他の訓導よりも品性が高いとは必ずしもきまつて居ないであらう。又、中學校の教頭若くは倫理の免許狀を有つたものが他の教諭のだけよりも品性が高いとは限るまい。

果して校長が修身を教授するのがよいか、或は受持教員に教授させるがよいか、又、教頭にさせた方がよいか、或は品性の高い教諭にさせた方がよいものかは

一概に論定されない問題であらう。

成る程校長が修身教授を受持つことゝなれば修身科の教授は統一せられ、又、校長をして全生徒に接する機會を多からしむ等の利益はあるやうに思はれる。併し受持教員の修身教授を奪つて校長が之に當るといふことになれば餘りに受持教員を無視したことゝなりはすまいか、又、その教員が生徒に對する教育的權威、信用をも減殺するやうな嫌はないであらうか、斯くて校長が道德教育の一販賣をやるやうな考を生徒及教員に持たせるときは校長は遂に孤立の姿となつて甚だ危険なる状態に陥るものといはねばなるまい。

全國に知名の多くの視學達が小學校教員の缺點に就て語つて居るところを聞くに、次の諸點に一致して居るやうである。

- 一、人格が高くないこと。
- 一、品性の修養を怠ること。
- 一、信念に乏しきこと。
- 一、雅量に乏しきこと。
- 一、不平勝なること。
- 一、職務に忠實でないこと。

- 一、社會的事業に同情の乏しきこと。一、學校所有品を粗末にすること。
 - 一、兒童の個性に就て深く將來を心配しないこと。
 - 一、偏狭なる理窟をこねること。一、同僚の名譽を喜ばないこと。
 - 一、陰氣な者の多いこと。一、成功を急ぐこと。
 - 一、小成に安んずること。一、研究心に乏しいこと。
- 果して斯くの如きが現代の小學校教員氣質としての真相であるかは輕々に斷定し難いけれども郡視學の見た如上のやうな教員も全然ないとは言へないであらう。

品性の劣等なる者が如何に口先上手に修身を講じたればとて教師自ら言行の一致しないお説教は生徒に對して何等の權威もなからう。道德教育はどうしても身を以て率ゐる範を生徒に示す決心がなくては到底實績は擧がるものではないのである。

一口に道德教育とはいふものゝ何も一種特別な道念を授くる事ではなからう。德育は要するに人格の教育であつて、知育、美育、體育を統一して知情意の圓滿

なる發達を遂げた人格を作るといふにある。それには全教員は之が爲めに全精神と全精力とを傾注し初めて達し得らるべきものであらう。

四、道德上の制裁

余輩が米國に遊んだとき社會に於ける道德的制裁の強いのを見て寧ろ羨ましく感じたことがあつた。

露國の文豪ゴルキーが嘗て紐育に來たときには世界的の文豪が來たといふので新聞紙などは初號活字を惜氣もなく植ゑてゴルキーの記事を以て飾つたのである。社交界の人々はゴルキーと握手したといふこと、文豪ゴルキーと一語を交へたといふことを以て一大名譽であるかの如く心得、斯くてゴルキーは多くの名士の家庭へ招待せられ、今日はランチに來てほしい、午後は某貴婦人から午後のお茶に招かれ、明日は富豪某から夕食に或はレセプションに招待せられるといふ具合で引張風の大モテであつたのである。然るに突然紐育の一新聞はゴルキーが今度伴れて來た女は夫人ミセスゴルキーにあらずして實は女優某であるといふことが素破ぬかれた、恐ろしいもので其の翌日からは新聞紙でゴルキー

のゴの字も書かなくなつた。ゴルキの宿泊して居た紐育の大きなホテルでは營業上紳士でないお方をお泊め申すことは出来ませんからお断り申したいとあつて今はそのホテルをさへ放逐されたのである。

ゴルキは今や本名を名乗つては米國內地を旅行することが出来なくなつた。詮方なしにヒラデルヒアから佛國汽船の便を藉りて歐洲へ逃げて歸つたのである。船中ゴルキは米國の社會的制裁が案外手酷しいことに驚いたであらう。

余輩が紐育大學に在學中最高額のフェローシップを與へられた恩人グールド女史は制裁に就て自己の苦しき經驗を有つて居られるのであつた。

グールドは人も知る如くハリマンと併び稱せられた米國の鐵道王の一人である。然るにグールドの品性を疑ふものはグールドが今日の成功を見るまでには幾多の人を欺き、陥し入れ、踏みつけ、叩き落とし、人をチートしつゝ、其の巨萬の富を作り、其の名を成したものである。而も富成り名をなしたる曉に此等の犠牲者には一瞥をも與へず、何等の謝禮をもしない、故にグールドは大いに制裁すべき

人物であると説いた其處で巨萬の富は積んだのであるけれども、グールドは遂に社交界の人々から交際されずした死んだのである。グールドの死後遺産は三人の兄弟に分與された。

其の幾萬金を分けて貰つたグールド嬢は丁度妙齡の處女であつた。然るに新聞では若しグールド嬢に結婚を申込むアメリカ人がありとすれば彼はグールドその人に結婚しやうといふのではなくして實はグールド所有の巨額な金に結婚せんとするものであらうと、冷評した。斯ういはれたからにはグールドは意地にも結婚が出来なくなつた。今は四十歳を越えたオールドミスとして依然獨身で通して居るのである。

父の死後グールド嬢は父の罪滅ぼしとして少しは社會に善をもなし、社交界へ出入もして見たいものとの希望を有つて、先づ第一著として紐育第一のホテルに於て一大レセプションを催し千名に近い紐育の紳士、淑女を招待した。然るに定刻になつたが一人の客も來ない。十分過ぎ二十分待てども一人の淑女の影もなし、一時間待つても一人として來るものはなかつた。此の夜グールドは米國

の社會的制裁の今更に手強いのに驚き且は怖れて一夜を泣き明かしたのであつた。

社交界へは到底出入することを許されないから、此の方は斷念するとして、せめては小さな慈善をしやうと決心した。そこでグールド嬢は自分の馬車に植木の盆栽を五鉢、六鉢載せて下町の東方、紐育の貧民窟を指して急いだのである。

彼等貧民は穢い狭くしい一室に五六人の家族が起居して居る、而も彼等は其の日その日の生活に追はれて到底自然と楽しむことさへ出来ない悲しむべき境遇にあるので、若し此の些細な植物——これも自然の片われである以上、之を彼等に與へなば朝な夕なにこれを窓側に眺めて小さき慰安を得ることもあらう。然らば自分の志は達したものであるとして、此の植木鉢を長屋の子供に與へたのであつた。

今持つて來た植木鉢の五、六鉢を無事に施し盡したから、いざ歸宅しやうと馬車に乗りかける刹那、子供等が件の盆栽をつき返して來て居る。私等はグールドのものは貰はない、グールドの名は大嫌ひといふ小さな子供の大きな聲がす

る。盆栽は馬車を目がけて投げつけられる、盆栽は遂ぞ貧民の手にさへ受領されないのであつた。泣きつゝ、馬車を驅るグールドの心中は察すべきである。

小さい慈善に失敗したるグールドを救済せんとして來つたものは救世軍のブリス大將であつた。ブリスは懇々とグールド嬢に説いて寧ろ思ひ切つて大きな慈善から始めよと勸告した。最も遠いところの人類を救済するのは最高善であるとかいつて、亞弗利加の傳道事業に對して五十萬金を投せしめた。次には日本及支那の東洋傳道に對して幾萬金を寄附した。更らに米國の私立大學に對しても幾萬弗かを寄與した。其の都度新聞紙は生れ代つたグールド嬢の大慈善として時々雜報を賑はすのであつた。斯くの如く大慈善を施したグールド嬢は社交界の人々の顧みるところとなり、交際を申込むものがだん／＼多くなり、今日ではグールド女史といへば米國社交界一方の重鎮と見做さるゝやうになつて居るのである。

之に就て吾人の學ぶべき點が二つあるかと思はれる。其の一つはいふまでもなく、如何にも制裁がピリツとして權威のあることで、他の一つは改悛の誠意を

示した者には、又以前の如くに交際するといふ點である。此の點は確かに大國民的の態度であるやうに思はれる。日本の社會では露探に對して石を投げ、宿泊を拒み、絶交する等のあるからこれを一種の社會的制裁と見ることが出来るやう、併し斯かる國事に關することはかりのやうである。而も斯かる國事に關したものは制裁しはなしで、改悛したものに交際してやらぬといふことは餘り感心した事でない様に思はれる。又國事以外の罪惡などに就ては何等の制裁がない。相場に當つた成金にも紳士として交際せられる今日であり、藝妓などを伴つて旅行したからとて何等のこともない。ゴルキーなどを喜ばせるにはよからうけれども社會道德の進歩より見れば寒心すべきことであらう。

道德教育の上に此の制裁の精神を應用したいものである。生徒中には三十分や一時間留置いて校長が訓戒を加へた位では到底改悛しないやうな不良兒も往々見受けることである。體罰は今や小學校令によつて禁せられたのである。然らば教育上有效なる罰としては如何致したものであらう。

デヨーヂの少年共和團の如きは制裁を教育上に應用して誠に巧妙を極めて

居るやうに思はれる。即ち生徒中任命された巡查が悪いことをして居る生徒——市民を發見するや直ちにその生徒を拘引して規定により公判を開く、罪相當の處罰を受けるといふ制度である。萬引をしたものは三日間監獄(共和團内にある)へ入れられる、三日後にして出獄すると向ふ三週間の監視に附せられるのである。此の監視中は生徒としての當然行使すべき權利、即ち選舉權、公判に出席する權利、巡查等の吏員に任命せらるゝ權利、圖書館へ出入する權利等凡て一時停止せられるのである。此市民としての權利を行使せしめないといふ制裁は生徒には最大苦痛であるらしい。最痛切に感ずるので、如何なる生徒でも再び悪いことはすまじといふ堅い決心を示さうである。

自由、名譽、權利、特典を一時奪ふ制裁は道德教育に於ける罰として甚だ有效であらうと思はれる。此の點に就ては我國の教育家が大いに工夫すべき餘地が多いやうである。

五、疑はしき道德教育

試みに借問せん、小學校に於ける現時の道德教育は何等の憂ふべきなく、何等

の難すべき弊なく、些の遺憾なく其の目的を達しつゝある乎と、換言すれば現代の我道德教育の方針は果して此の分にて満足せらるべきかどうかである。

余輩は此の一間を提げて、天下の教育實際家に尋ねて見たい。余輩は之れを現代の所謂學者若くは政治家、行政官、乃至は教育學者とか文部省の當局者に向つて問ひたいのではない。何となれば此の方面を叩いての解答は尙ほ余輩の不明を以てするも、其の肯定的樂天か、否定的悲觀を仄めかすかは必ずしも其の舌と顔色を待たずして略ぼ想像するに苦まないと信じたからである。余輩は寧ろこれを帝國十數萬の教育實際家の舌根より何等の腹臆のない詐りのない、率直な告白、臥仰天地に恥ぢざる底の解答を得たいのである。

之れに對して然りと答ふる勇者もあらう、斯く一言の下に肯定し去るオプチミストもあるであらう、然し余輩の察知するところでは斯くの如き肯定的樂天派の解答は上官である、郡市縣視學、他人である父兄町長、相手である學生生徒、世論を騒がす新聞雜誌記者、理窟に巧みな教育學者といふやうな人々に對する表面的形式的、修飾的の御挨拶に過ぎないであらうと判斷するに躊躇しない。

余輩が今斯く申せば、何を以て爾かいふものぞといはんばかりに怒號する實際家もあるであらう、此の派の人は概ね前に述べた勇者のタイプに屬する實際家である。

又、余輩が斯く申すことに就て敢て怒らず沈思一番、さて微笑しながら『序にお手の筋を』といふ愛嬌家も多いであらう、余輩をして此の愛嬌家の身の上を判斷せしむるならば此の派の人は現在身分等のやつて居る道德教育といふものは打明けたところ随分疑はしいといつて國家の前途を憶ひ、小國民の將來を憂ふる眞摯著實なる、涙ある良教育家である、而も余輩は斯くの如き良教育家が多いと判斷したが此れも事實に近いものとすれば此れ果して國運の將來かう考へて幸福であらうか、不幸であらうか。

勿論斯かる良教育家が我帝國に多いといふことは大なる幸福であらう、我國の誇るべき一大慶事であらう、併し斯く多數の良教育家が齊しく我國現代の教育を疑ひ、その效果に對して不安の念を抱き悲觀して居るベスミストが多いといふことであるならばこれ教育上由々敷一大事である、余輩は斯くの如き良教

育家と共に斯くの如き重大なる教育の實際問題に就て攻究することは實に愉快である。

今試みに次の如き二三の質問と暗示とを提出したならば恐らく如何に自惚れた樂天派でも必ずや多少眉を顰め色動くであらう。

(一) 道德教育の目的は道德的知識を授くのみなるか。

(二) 道德教育は果して品性の陶冶を目的とすべきか。斯くの如き目的は現代の小學校に於て達せられつゝありや。

(三) 智者は多し、徳の人は少なし。小才子は多く、徳行に乏しとは果して現代の眞相なるか。

(四) 小學校に於てとれだけ兒童をして徳の人たらしめしか。

(五) 小學校に於てとれだけ道德的習慣、行爲を授けしか。

(六) 反國家思想、物質主義及自然主義、個人主義等の思想は果して小學教育と没交渉にして之れに對して何等の責任なきか。

(七) 小學校卒業生は小學校入學當時よりも、又、中學校、及高等女學校の卒業生は

中學校及高等女學校入學當初よりも修學年限、修身教授時間、訓育時間等に

ふさはしき、道德教育の効果を果して遺憾なく收め得たりとするか。

先づ我々のノートの一頁に次のやうに記したい。

『學校に於ける現在道德教育の效果や疑ふべし。』

宗教を教へ得とすればそれは神學である。美術を教へ得とすればそれは美學である。道德を教へ得とすればそれは倫理學であらう。

倫理學は教授し得らるゝかも知れないけれども、道德は教授することは出来ない。道德は口に傳ふべきではなくして寧ろ眼に訴ふべきものである。道德的行爲は反覆せしむべきである。日常の道德的行爲に慣れしむべきである。多くの道德的習慣を養成することである。惡習慣を打破することである。不良なる傾向、行爲に對しては制裁、非難を加ふべきである。以て正やなすべく、不正や爲すべからずと涙ある經驗を積ましむべきである。斯くの如き主張に立脚して米國には政治的道德教育を説くものが多い。此等の點は大いて吾人が冷靜に考究しなくてはならぬ點ではあるまいか。

六、教育勅語の取扱

道德教育上教育勅語や戊申詔書の取扱に就ては教育家も餘程苦心して居るやうである。又文部省などは切りに其の暗記、暗誦を奨励して居るやうである。

暗記、暗誦素より悪くはない。否、時には大いに其必要もあらう。併し、現時小學校に行はれて居る勅語教授なるものは多くは無意味な機械的な暗記、暗誦で、所謂論語讀みの論語知らずの觀があるやうに思はれる。

君に忠に、父母に孝には誦んじて居るけれども子供にふさはしい君に忠なる、父母に孝なる行爲はどんなことであるかと問へば、進んで答へ得るものは先づ少ないといふ形である。

徒らに機械的の讀み方や、記憶、書き方などを教ふるに全力を盡して却てその精神を理解せしめぬものが多いではなからうか。

斯くては反覆し練習するに従ひ、漸次其の念は薄らき、遂には何とも感じないやうな不結果に終ることはなからうか。果して斯くの如き不結果が表はるゝとならば今日小學校等に行はれて居る勅語の暗記、暗誦は考へものであるといは

ねばならぬ。

無暗に忠孝、忠孝と押つけるときは却て反感を來たすやうなことはあるまいか。又、教育勅語を餘りに分析的に教授し、字義上の解釋をするだけでは決して生徒は感心しないであらう。更らに一々の徳目に分析して断片的な徳目だけを授けるとときには教育勅語は骨抜ききの解剖された道德となりて教育勅語の全體に通じた大精神を味はしむることは出来ない。

一口に父母に孝といつても尋常一、二年の生徒では父母の命を守る、學校でよく勉強することである位のところで澤山であらう。又、尋常四、五年以上では家事を手傳ふとか學校の平素の成績を舉げて父母に安心させ喜ばすとかいふ程度に於て孝行を説けばよからう。

學校で勤勉なるは教育勅語に所謂學を修め業を習ふことであり、忠義となり、孝行となる所以であらう。又、學校の規則を守ることは國憲を重んじ國法に従ふ所以であり、従つては良生徒、やがては國家の良民として君に忠なる所以、父母に孝なる所以であらう。斯くの如く生徒の日常行爲をして教育勅語の大精神に一

致せしむるやうに導くのが眞の道德教育であり、勅語教育の向ふべきところであらう。

唯、徒らに口先ばかりで教育勅語を誦んせしむることを以て教育勅語を教授し得たりとするが如きは、未だその大精神を徹底せしめ得ざるの徒である。要するに學校に於ける教育勅語の取扱に就ては道德教育上大いに考慮工夫し改革されなくてはなるまい。

第六章 疑ふべき就學歩合の高率

一、實例

K縣B郡のS村は其の小學校兒童の就學歩合が百人に對する九十六人強の高率であるといふので、同郡普通教育の成績に徴して其の首位を占めて居る。S村立小學校長及職員の喜びはさることながらS村長はこれを本村の名譽なりと誇稱して村民を悦ばせたものであつた。S村學務委員連中の得意や思ふべしである。

ところが昨年に至り、山を一つ越えて相隣して居るN村の就學歩合が九十九人強の統計を示し、郡内就學歩合のレコードを破つた。従つてN村はS村の名譽得意、喜悅乃至は郡衙に於ける信用の凡てを奪つたのである。

K縣は全國就學歩合の順位に於て第二十五位にあるとか、而してB郡のK縣に於ける就學歩合は第八位にあるとか、さればK縣は就學歩合に於て他の府縣に比して餘り成績のよい方ではない。又、その縣下の第八位にあるB郡の成績も亦決してよい方ではないのである。そこで、K縣の教育當局者は就學獎勵といふ名の下に縣下の就學歩合を高めんが爲めに一策を講じた。それはK縣下各郡の就學歩合を比較して最高率を得た二郡だけを賞與するといふことであつた。そこで各郡は郡内の就學歩合を高むるにはなか／＼の努力を示した。この努力を示すまでは先づよかつたのである。併しその結果はどうであつたか。

此の光榮に浴せんと血眼になつたB郡は郡内各町村の最高率就學歩合を得た二ヶ町村に對して村長及學務委員を慰勞、賞與することゝしたのである。而もその結果は一昨年に及んでN村が出でて實に九十九パーセント強の高率を示

し、先づ其のレコードを破つたといふのである。

二、其の方法の巧妙

N村が此のレコードを破つたのはよかつたが、其のレコードを作りたる方法に就て大いに疑惑を抱いたS村の某々などいふ連中はN村の今度の遣り方に就て探りを入れ遂に妙な事實を發見したのである。

それはK村小學校の女兒が三名ばかりS村某々家の子守として雇はれて居たことから探らるゝやうになつたのであつた。

N村の小學校では四、五、六學年に於て都合十名ばかりの兒童は家事の都合で子守などをして他家へ雇はれて居た此の十名ばかりの兒童に就學の猶豫を許したならば到底斯くの如き九十九パーセント強の高率を得て郡内のレコードを破る譯には行かぬ。そこでN村の學務委員連中は鳩首協議の上工夫したのが此に一名案(?)を決定した。それは小學校令施行規則第九十二條及第九十三條を最巧妙に解釋することであつた。即ち同規則には、

第九十二條 在學兒童ニシテ正當ノ理由ナク引續キ七日間缺席シタルトキ

ハ關係學校長ハ遲滯ナク其保護者ニ對シ兒童ヲシテ出席セシムベキ旨ヲ通知シ仍引續キ七日以上出席セシメザルトキハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ報告スベシ。

第九十三條 市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スベシ。

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲ爲スモ仍就學又ハ出席セシメザルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ報告スベシ。

といふのであるから七日目に一度出席するものがあれば市町村長より出席の督促を受ける限りではないのであつて、それで兎に角法文上就學して居るものと見做され得る譯なのである。

缺席すること七八日、校長之を市町村長に報告す、市町村長之が出席を督促すること一回、二回目即ち十五日間缺席して始めて出席するとすれば、即ち、府縣郡より督促を受ける限りではない。これでも確かに就學して居るものと見られるのである。

然らば毎月十五日間毎に一日、一ヶ月二日だけ出席する児童がありとすれば、それでも確かに就學して居るものといつてよからう。此くの如き児童によつてN村は就學歩合の幾パーセントかを高むる所以なのであると、斯ういふやうに法文をいと巧妙に解釋したものであるから十名の子守達の保護者に對し君等が子供を就學させない爲めに本村は郡内で不名譽な地位にある。若し君等が子供を十五日毎に一日出席さすれば本村は郡内第一の成績を得ることになる。君等は毎月二日間だけ出席せしめないで吾等一般村民の顔に泥をぬりたいか。それならば此方にも其のつもりがある、などと村の有力者である學務委員の如き人々からやられては子守達の父兄たるもの動かざるを得ない。それも僅かに二日間ばかり出せといふのであるから、毎月二日間十五日目に出席せしむるの件全部承諾濟となつた。斯くして十名ばかりの子守連中が十五日間に一日出席することによりて此の十名は正しく就學して居るものと見做され、さては斯く就學歩合九十九パーセント強の高率を得たものであつた。

以上は余等が去る夏、田舎旅行をしたとき實際目撃した事實であつて何等の

飾りもない打明け話である。

三、制裁の必要

日本の就學歩合九十八パーセント内外は就學歩合に比して決して遜色を見ない。否、歐洲の二三ヶ國を除いては日本の方が遙かに優位を占めて居るやうである。米國などよりも日本の就學歩合の方が高率である。併し乍ら日本の就學歩合なるものは出席歩合ではないのであるから眞面目に就學した實数は文部省が年々報告するところよりもすつと少ないことであらう。現にN村のやうな就學歩合九十九パーセント強の如きがあつては決して喜ぶべきでなく、又決して安心せらるべきものではないのである。日本の如く何事にも形式を喜ぶ文部省の統計報告の如きは安心も信用もなつたものではない。

日本の如き社會に於て眞に就學歩合を高めんとするには不就學児童の保護者に對する制裁を今一層嚴ならしむる必要があるかと思はれる。義務教育の就學に關する制裁に就ては歐米各國多少國家によつて異るところがある。次に其の主なるものを擧げて參考としやう。

國種	學齡	不就學者及缺席者に對する制裁
佛國	六歳—十三歳	金六圓以下の材料及五日間の監禁
獨乙ババリア	六歳—十三歳	金二十二圓以下の材料及八日間の監禁
英 スコットランド國	五歳—十三歳	金十圓の材料及若くは十四日間の監禁
伊太利	六歳—十二歳	金二十錢より四圓迄の材料
ハンガリー	六歳—十二歳	金七十錢より金三圓迄の材料
オーストリア ハンガリー	六歳—十四歳	金七圓以下の材料及若くは二日間以上の監禁
獨乙ブルンシャ	六歳—十四歳	其の都度金一圓四十錢以下の材料及又は三日間以上の監禁
瑞西テツシヤ	六歳—十四歳	金四錢乃至六錢の材料及四時間間の監禁
加奈太オンタリオ	七歳—十三歳	全月缺席せしめし者に金二圓の材料
米國イリノイス	七歳—十六歳	金十圓より四十圓迄の材料及、又、年齢及缺席に就て虚偽を申立てたる者には六圓乃至四十圓の材料

又、瑞西では一學年授業日數中六分の五以上の出席を要求し、瑞典に於ては三十四週半以上の出席を要求し、瑞西ヅリチに於ては十日間缺席したるものに罰金を課し、加奈太ノバ、スコテアに於ては一學年八十日間の出席を要求し、オンタリオに於ては百日間、ブリンスエドワード島に於ては一學年十三週間の出席を要求して居るのである。

佛國では一ヶ月四日間缺席すれば監督官より召喚せられる、又、ハンガリーでは都會の學校に於て十ヶ月、地方の學校で八ヶ月の出席を要求して居る。前掲の表に就て見るに、加奈太オンタリオ、米國イリノイス州の制定して居る制裁の如きは寧ろ我國の如き状態にある義務教育に對して大いに適用したく感ずる次第である。

四、落第と義務教育未了

義務教育の期間は滿十四歳までと規定されて居るから五月以後に生れた兒童の如きは小學校に於て二回以上落第すれば十四歳の學齡滿期に達するのである。此の場合國民教育上極めて大切な尋常五、六學年の課程を修了せずして廢

學するとも現行法令は如何ともすることが出来ないものである。少々不出来でもなるべく落第させないで進級させ六年の課程をイガミなりに卒業させるのがよいか、嚴密に試験して學力の足らざるものは遠慮なく落第さす方がよいかは大いに研究しなくてはなるまい、此の點に就て歐米の或國々では一定の卒業試験に合格しなければ義務教育を完了したものと見做さないと規定して居るのである。國民教育の充實を企圖するならば遂に此問題にも觸れなくてはなるまい。

第七章 電氣仕掛の新教育と低能兒

一、流行せる低能兒研究

低能兒の教育といふことが此頃では寧ろ一種の流行となつたやうに思はれる。著者が此の夏地方へ旅行したとき某教育會で其地小學校教員の話によると第三學年の第一學期には彼の受持兒童中驚く勿れ八名の低能兒があつた。ところが彼が特別の低能兒教育に力を盡した結果によると第二學期の中程で八名

の低能兒が凡て普通兒になつたといふことである。低能兒研究の流行に伴つて低能兒扱にされる生徒こそ迷惑である。この八名の如きは確かに所謂低能兒ではなかつたことは明かである。

敢て低能兒とまでは行かずとも算術に於て他の生徒よりも不成績であり、或は國語に於て劣つて居るやうなのが随分多いやうである。斯くの如く一部の學課に就て劣れるもの——劣等兒とも呼ばうか、此の劣等兒の取扱に就て亞米利加の小學校では頗る經濟的な方法を應用して居る。

それは劣等兒受持教員といふ學級を擔當しない特別の教員を置いて、受持教員より此の甲なる生徒は算術に於て、或は乙なる生徒は國語に於て遅れて居るといへば此の劣等兒受持の教員は此等の生徒を専門に教授するのである。斯くするときは一、二週間を出でずして他の生徒と學力を等しくすることが容易なのである。

著者の知つて居る生徒は不成績を重ね遂に尋常二年級で落第したのであつた。然るにその落第せしめた年から成績がめつきりよくなつた。斯くて小學校は

毎年優等の好成绩を以て進級し、中學校に進んでもその成績は依然甚だよいといふことで父兄なども落第させて貰つたお陰であるといつて寧ろ今日では喜んで居るのである。

此の生徒などは確かに自分の能力には丁度一年だけ教育の程度が高過ぎたので落第したのである。それで一年落第せしめて一ケ年の程度を低めるときは丁度この生徒の能力程度に、しつくりと適合したので、斯く落第後優等兒となつたのであらう。

要するに個性に注意を拂はれざる多くの生徒中にはこんなのがないことは限るまい。斯ういう生徒を若し低能兒など速断されては翌年から一躍して優等兒となるやうな奇觀を呈するであらう。要するに低能兒を判断するには教育家は須らく微細に観察し、或は醫師に相談などして判すべきで決して速断すべきではない。

二、紐育に於ける電氣仕掛の新教育法

最近に紐育から送られた新聞によると、本年九月の新學期から米國紐育の小

學校では教育上最近の發明である電氣仕掛の新しい教育方法を實驗しつゝ、あると報じて來たのである。

其の發明者はニコラ、テスラ氏で、此の實驗を行ふことに賛成したのは紐育市視學として有名なるマキシウエル氏及コロンビア大學のプラン博士等であつた。若し此の實驗にして好成绩を示すならば米國の教育は更らに局面を一變し、從來の教育法を捨て、大いに其の面目を改むるであらうといふ。斯くの如き企圖は狂的發明者の夢想であり、到底不可能であるやうに一應は考へられる。併し、發明者テスラ氏は瑞典の首都ストックホルム市に於て已に大成功を以て彼の實驗を終つて今度は紐育市へやつて來たものである。

此の九月から實驗に供せられたのは紐育小學校の生徒中五十名の低能兒が撰ばれたのである。此等の生徒は電氣を仕掛けられた教室へ入れられるのである。此の電氣教室の壁には最高度の電流が通じて居る。而も子供の腦髓は此の電氣によつて人爲的の刺戟が與へられ、漸次心身の著しき發達を示すと云ふのである。紐育に於ける此の實驗は六ヶ月に限られて居る。六ヶ月の後の結果こそ見

たいものである。

三、無害の興奮劑

心理學者は斯くの如き電氣の刺戟を恰も酒精アルコールの如く一種の精神的興奮劑と見做し、唯其の異るところは電氣の刺戟は心身に無害であるといふに一致して居る。之に關し發明者テスラ氏の雇つて居る一助手は生來稍愚鈍な男であつた。電氣を取扱ふにも「ノロマ」で困つたさうである。併し、電氣を取扱つて居るうち高度の電氣に刺戟され暫くにして此の男は電氣の取扱が極めて敏活になつて來た。テスラ氏は同一の仕事を度々反覆する結果即ち職業的に練習して斯くの如く慣れたものであらうと思つて居たのである。然るに此の男の舉動に就てよく注意すると全く電氣の刺戟によつて脳神經を活潑ならしめ、著しく理會に遅かつた男が萬事早く理會するやうになつて殆ど別人の觀を呈したといふことである。

四、ストツクホルムに於ける實驗

テスラ氏は瑞典のストツクホルム市に於てスパンテ、アーヘニウス教授管理

の下に小學校の普通の生徒に對して實驗を行つた。其の結果は歐洲の科學者殊に心理學者及教育家の深き注意と興味とを惹起せしめたのである。其の實驗には小學校の普通生徒百名を以て甲、乙の二組に分けたのであつた。

此の百名の生徒は年齢、身長、體重、體力、學力等の心身狀態が相互に相近きものを選んだのである。甲の組の五十人には所謂電氣仕掛教室に於て教授し、乙の組の生徒五十人は普通の教室に於て教授されたのであつた。而も其の教師は學識及經驗に於て互に相近きものを以てし、甲乙組共に同様の教育を施したのである。斯くして六ヶ月後の實驗の結果に徴した。

此の實驗の結果によると電氣を施して甲組の生徒は二吋半の身長を増加した。之に對し電氣を施さなかつた乙組の生徒は身長一時四分の一を増加したに過ぎなかつた。又、甲組の生徒は乙組の生徒よりも比較的體重及體力共に著しき發達を示したのである。

更らに精神上の差異を見るに男組の生徒の學力試験の成績は平均九十二點であるに對して乙組の生徒は平均七十五點を得るに止まつたのである。又、甲組

では満點(百點)の成績を得たものが十五人あつたけれども乙組からは僅か九人だけのものが満點の成績を得たに過ぎなかつた。

尙ほ甲組の生徒は乙組の生徒よりも概して活動的にして疲勞せず、能力の敏活と忍耐力の増加等に於て著しき差異のあることを確めたのである。此の差異は甲組は普通の生徒の如く乙組は低能児の多い學級のやうな色彩を呈したのである。

五、テスラ電器の構造

此の電気仕掛の教育器械をテスラ電器と呼び發明者の名を附けて居る。其の一次線輪は粗線輪を旋轉して作つたものであるけれども、彼の普通の電氣に使用して居るX線電氣の電線とは餘程異つて居るのである。X線輪では五十乃至五十萬ヴォルトの電力を得るに過ぎないけれどもテスラ線輪を用ふるときは優に幾百萬ヴォルトの電力をも起さしむることが出来るのである。之を教室に用ふるには何の雜作もないことで生徒にも出来るのである。斯くの如き高度の電氣を間斷なく送るのであるから教室内の空氣は直ちに電氣に飽和されてし

まうのである。

電氣といへば世人は直ちに恐れるけれども極度の強いテスラ電氣は決して人體を害するものではなく高度の電氣量を以て弱い電力を長く通すれば死刑も執行されるのである。

彼のX電線は高度な電力を有するけれども危険の場合が多い。併しテスラ電器はX線電氣よりも遙かに電氣が高度でありながら決して何等の危険をも伴はない。X線は人體に觸れると彈丸で打られたかのやうに穴があくけれどもテスラ電氣は人體に通するだけである。酔ふだけのこと、浸みるだけのものである。恰も電氣浴といつたやうな具合なのである。

六、電氣のかけ方

此のテスラ電氣のかけ方には三つの方法がある。即ち、

(一)電流の元、又は末端を以て直接身體に通せしむる法。

(二)電氣を施した教室に於ける一定の場所へ生徒を導き交代に電氣に浴せしむる法。

(三)生徒を個人的に感應せしむる法

而して紐育に於ける實驗には以上の三方法が併用せられるといふことである。併し第三の方法は必要を認めたる時に於てのみ行ふので先づ教室の周圍に電線を装置し電力の急變を起し得るやうな仕掛けをして最高度の電氣を通せしむるのである。

實驗中に電線を隠し、或は電氣の仕掛けてあることを教師及生徒に知らせなくとも其の成績は十分に擧げることが出来る。斯くして公平なる判斷の下に其の效力の眞價を定むることが出来るであらう。

七、女子及低能兒教育のみの福音に止らず

プラン博士は『女子は身體の構造といひ、又女子の心臓の早く高まるところといひ、腦量の少ないところ、皮膚の薄いことは確に電氣教育に感應し易く、且又之を施すの必要ある所以を語るものといつてよからう。普通の男兒は女兒よりも學業の成績がよろしいやうである。女兒は男兒の中等の成績を得るのが關の山のやうである。如斯き女子に電氣應用の新教育を施すことは更に必要であらう。』

斯くの如き新教育に對して世人は舊習慣に囚はれた眼を以て危險視し、冷笑し、教育家は疑惑し、躊躇し、進んで之れをやつて見やうといふものがなかつた爲め今日迄米國に於て實驗されなかつたのである。併し斯くの如きは進歩的な文明人の取るべき態度ではあるまい。これ米國の教育が歐洲の教育に一步を輸し瑞典の新式教育に後れた所以である。

併し紐育に於ける本年の實驗は實に全米國に於ける第一の實驗である。其の結果は此の實驗の終局に徴すべきで未だ徒らに反對の聲を出す時期ではない。須らく冷靜に待つべきである。進歩の爲めには何でも實驗しないのは嘘である。紐育市では先づ五十名の低能兒を提供して此の學理的教育法の研究に應じた譯である』と述べて居る。

此のテストラ電器を一教室に据附けるには百弗を要するといふことである。錫の一片を此のテストラ電線に接觸せしめて電力を通せしむるときは銃聲の如き爆發の音を高く錫は熔解するのである。併し此テストラ電氣を人間の頭部或は手に觸れしめても決して何等の害をも與へない。世人は往々電氣と聞いたばかり

で縮み上るけれどもテストラ電氣は人體に無害、心身の發達を大いに助成するやうに仕組み發明されたものであるから決して何等恐るべきものではないのである。

若し紐育市に於ける本年の實驗が六ヶ月の後になつて大成功の結果を發表すると假定せば、彼の實驗に供せられた五十名の低能兒は一躍して優良なる兒童となり、自らも夢かとはかり驚くことであらう。斯くして五年、十年の後には電氣室のない學校や電氣のない貸家は文明人が相手にしなくなるであらう。

然らば教育電器の發明は單に女子の一部及低能兒教育上一大福音であるのみに止まらず、ストックホルムに於けるが如く之を普通の兒童に適用しても著しく心身を發達せしむるのであるから一般教育上の福音といはねばならぬ。

米國人が身長を延ばす器械を發明したのは今や一昔となつた、今度の心身を發達せしむる教育電器の成績は如何であらう!!

果して此の教育的大發明が有効であるとすれば一般人は按摩や醫療及藥用の大部分を廢して此の新しい科學的心身強壯器を使つて腦神經を活潑ならし

め、消化及血行を敏活ならしめ、大いに心身を爽快に健全ならしむることが出来るやう、然らば之を廣く宗教及教育に應用することによつて國民の活動力を幾倍せしむることかわかない。採光や醫療に用ひられた時代は過ぎて今や教育及家庭に應用せられるやうになつた。人類教化及人類救濟の爲めに此の新しい教育電器を成功させたいものである。

第八章 親切過ぎて實力のつかぬ教授法

一、親切過ぎる教へ方とその反動

教師は教授法を研究し、苦心する結果、教へ方も上手になつた、上手を通り越して親切過ぎる教へ方をするのが多いやうである。

又、一方では兒童心理學の上から子供の能力に適合するやうにとあつて、教材の選擇、排列にも十分意を用ふるやうになつた。

教課の内容は愈々簡易になつた、教師の教授法は愈々巧妙になつて來た、恰も嚙んで含めるところか教科書の中の事柄を丸藥に圓めて飲ませるといふ調子、

牛乳を飲ませて腹式呼吸といふ形、兒童を半病人扱ひとした衛生的軟教育である。それで教育の結果が大いによろしいかどうか。

教師の教授法は巧妙に進歩したけれども、生徒の學力は逆比例で退歩したとか、教課の程度は大いに低められたけれども、學生の實力は却てそれほどに發達しないとかいふ非難の聲は愈々出でて益々高くなつたやうである。

此の軟教育の弊に對して硬教育といふことが一時稱へられた。此れは努力主義の鍛鍊的教育とでもいはいうか、一種の反動として生徒自らの意志に訴へて苦んで勉強させやうといふ考であるらしい。

もの極端に走れば弊ありで、此の硬教育が教育の實際に適用せられて、偶々一教師が『今日は少しく硬教育を施して置いた、どし／＼やるがよい、少々無理でも構ふものか、教授法もへちまもあつたものではない。』と、いつたさうである。硬教育も斯くの如く極端に走つては普通教育上硬教育の排斥に力めねばなるまい。勿論眞理は兩極端の中間にあるべきで、軟教育の親切心を以て硬教育を施すといふ點に來なくてはならぬ。

二、現代小學校教授の通弊

兒童は學校以外に於ては自分に興味あることを思ひ立つや随分に努力もする、工夫もする、周到なる觀察も試みる、試験的に度々繰返し工夫、發明する、遂には正しい研究の道を辿りつくことがある。併し學校に於ては教師に依頼するの餘り、努力を怠り教師任せにして何等自ら發明工夫しやうとはしない、即ち獨立的攻究の方面に疎くなる傾向があるやうである。

學校に於て教師は學修の大部分をなし、リーダーを以て任じ、生徒等は之に従つて動くといふ受動的、消極的、受學的、模倣的態度である。然るに兒童が家庭に於て獨學するときには自ら學修の全部をしなくてはならぬから勢ひ自動的、積極的、自學的に發明工夫するのである。學校では常に教師がして見せて呉れる教課の分類、説明、相對的價値の判斷、應用等の點に至るまで凡て兒童自らが獨りで努力工夫し、獨力發明しなくてはならぬ。此れが本統の教育であり、又實力養成の教育法ではあるまいか。

學校では自分で研究する力を養はんとして却つて生徒の獨立心を奪つて居

る、獨立の人たらしむるを理想としながら獨力、努力の人としての資格を奪ふやうな惡結果に陥つて居るやうである。

從屬は決して獨立の準備をなす所以ではない。現今の小學校に於ける教育は教師中心主義の教授である。教師の教授的技倆が教場を支配して教授を巧妙に派出に活動的に變化あらしめ、興味あらしむるを以て教壇上に於ける教師の能事と心得て居る。斯くて教師のみ語り、教師のみ働く、全級生徒が三十人ありし而も生徒二十人以上の分を教師が一人でシャベクルとすれば之れ教場は教師の獨舞臺である。教室は生徒の爲めに作られずして却て教師の爲めに作られしものたるが如き奇觀を呈して來る。教師が中心で生徒は副となり、教師が生徒を代表して學修し研究するのを生徒が傍觀して居るといふ形、教場は生徒の知力を涵養するところにあらずして教師が教授法を實習するところのやうな姿となつて來るではないか、教授の巧拙は決してチヨークの使用高ではなくして生徒の實力の程度如何にあるのであらう。要するに將來は教室は生徒の爲めの教室であり、教授は生徒をして學修せしむるのであるといふ余輩の所謂兒童中

心主義の攻究的教授法にしないでなるまい。

三、生徒の實力を高むる教授法

(一) 生徒の實力養成を目的とする教授は必ずや生徒中心主義の教授法に改めなくてはならぬ。從來の教師が主となつて演說様の教授法は斷然改革せられなくてはならぬのである。須らく生徒各自をして學修工夫するやうに仕向けることである。

(二) 兒童に興味ある研究問題を提出し、各自獨立に努力研究することは殊に必要である。獨立的學修に際して觀察し、證明し、推理する責任を持たせて子女の經驗と力量とによつて研究の歩を進めしむるは教師たるもの、義務である。教授細目に規定されたところだけを傳達さへすればそれで我が任務は盡せり終れりといふのは不親切なやり方である。

生徒自らをして教課を説明し、立證する力を養はしむるは教育家の任務である。生徒をして教課に就て明白に考察し、談話し、必要なる部分を判じ、不必要なる部分を省略してその大意要領に通ずるやうに要求するのは教育家の責任であ

る生徒をして正しく判断せしめ子女の経験を増さしむるやう助力するのは教育者の努力すべきところであらう。此の爲めには時々新聞雑誌、参考書に亘つて廣く有益なる経験の原料を探らせることも必要である。又書物の目次及索引の利用法、文學書の索引や辭典、辭書の活用法、参考書や圖書目録に就ての選擇法、早見法など一般圖書の利用法に慣れさせることは將來思想上獨立の人たらしむる上に必要である。學校では「研究時間」とか「攻究時間」とかを設けて生徒自身をして進んで研究、努力せしむるやうに仕向けなくてはならぬ。

(三) 一體語るといふことが教授ではない、といふことである。(Telling is not teaching.) 教授の極意は寧ろ多く語らざるにある。觀念を呼起したならば兒童をして之れに就て思考せしむることである。直ちにその觀念に説明を加へないで徐ろに待つ術である。此の教師が待つて居る間に生徒は自分の觀念に自ら説明をつけるのである。善良なる教師は生徒をして多く言はしめ詳かに語らしめ、自分はその樞要を述ぶるまでに止めるのである。然るに心なき教師は語りづめ話しづめである。多辯は銀にして沈黙は金也 (Speaking is silver silence is gold.) の語は

此の邊を戒めたものであらう。

若し教師が生徒よりも多く語り多く思考すとするれば此れ確かに生徒の領域を侵すものである。單に、生徒の學修を奪ふのみならず、生徒の奮發心を呪ひ、生徒の獨立心をも併せ奪ふものであるといはねばならぬ。

舊式の學校では生徒をして獨り學習せしめたから獨立的研究心は餘程發達した。然るに新教育の學校では舊式の學校に於て生徒がした事まで教師が奪つて一人でやるから、其の結果に於ては寧ろ近世の學校は中世の學校に及ばないやうである。然らば將來の教師は生徒のリーダーを以て任せずして寧ろ級中に於ける生徒の議長若くは審判官を以て任すべしである。教師たる議長が先に立つて騒がなくとも生徒たる議員をして大いに攻究、論議、判断、觀察、思考、努力せしむべきである。要するに攻究の大權と學修の權利の大部分は之を議員たる生徒に讓つて教師たる議長は此の間誤謬なきかを監視すればよろしいのである。

(四) 次に攻究問題として課すには子女の能力相應な應用問題即ち推理、觀察、判断、思想に訴ふるやうなもので決して六ヶし過ぎてはいけない。此の問題に就て

は教師及父兄の力を借らずして生徒自身に解釋せしむべきである。小兒は小兒相當の獨立的研究心を持つて居るのであるから先づ生徒をして働かしめ努力せしむることが肝要である。他人の助力によつて得た果實よりも自分の手一つで得た果實の方が遙かに望ましい。他の力を借りて八里を歩むよりも、自分の力のみで歩む五里の方が遙かに有力である。何となれば他の力を借りた四里若くは五里を返せば残る自分の實力の正味は三里若くは四里にしか當らないからである。

以上述べたところは要するに兒童を中心として兒童をして自習、努力、攻究せしむるやう思想上獨立の人たらしむるを目的とし、生徒を先鋒とし知識の山、經驗の峯を攀登らしめやうといふのである。必ずしも教師が先に立つて生徒の手を引いて登るが如きコイ／＼主義の教授でなくして生徒を先登として教師は寧ろ殿將として士卒の行軍を鼓舞せんとするユケ／＼主義の教授なのである。舊教授法の教師中心主義より來る表面的、獨斷的、消極的、受動的、他力的、受學的、服從的、模倣的、安逸的、衛生的軟教育の態度を捨て、生徒中心主義より來るべき

徹底的、批判的、積極的、自動的、自力的、自學的、獨立的、發明的、努力的、鍛鍊的、硬教育の態度に出づべしと主張するものである。尙ほ此の教授法のことには詳しく拙著『兒童中心主義攻究的新教授法』(價六十錢、東京日本橋寶文館發兌)に書いて置いたからそれをも併せ参考してほしい。

第九章 けなし主義の教授法

一、低能兒教育法よりの經驗

けなし主義の教授法とは生徒のすることを評して言下にけなし去る教へ方なのである。習字をさせてもそれでは拙い、これも拙い、あれもいけないとけなし去る。綴り方に於てもこの文章はなつてゐない、こゝがいけない、あそこが拙いとけなし去るやり方である。手工でも唱歌でも體操でもそれもいけない、これも間違つて居るそうでもない、こうでもないとけなしけなさる、教授である。日本の小學校を見るに實際に此のけなし主義が大分行はれて居るやうである。

米國の低能兒教育に經驗ある一教育家は低能兒を教育するにはけなし主義

では駄目であることを實驗した。けなす代りに少しでもよい點をほめることに力めた。これがよろしい、この方が尙ほよく出來た。今一息といふところといふ具合にけなし主義の反對の獎勵主義を以て教授したところが其の成績は甚だよかつたといふことで、米國の低能兒教育には今や多くは此の獎勵主義が行はれて居るのである。

二、けなす教員は氣短者

けなし主義の教授をやる教師は概して氣短な性質の教員に多いやうである。子供のするまどろしいことが氣短な教師には待つて居られないで、ついけなし去るといふ具合である。

教師ばかりでなく母親に就て見ても左うである。氣短な綺麗すきな母親の下に育つた娘の子は却つて家政に疎い、其の譯は娘が臺所などでうろくしてまごついて居るのを見ると母親は言下にけなし去つて娘のして居る臺所仕事を取上げてする。又、雑巾がけで座敷の掃除でも娘の手ぬるい仕方に嫌らず、薄氣味悪いとあつて雑巾を取上げる。娘をけなしながら箒を奪つて自分で掃除をする。

といふ具合、けなされた娘はうらしめしさうに母の手元を見て佇んで居るといふ有様で家政のことは益々覺えが遅いといふ始末になるのが多い。

裁縫を教授するにしても『それ、その糸が曲つた、そらあそこが縫ひつまつた、それではいけない、あれでは駄目だ』とばかりにけなされては習ふ方でも奮發心は出るものではない、失望、落膽でやけを起す、これでは何事も上達するものではない。寧ろ『此の一針は大きうよく縫へた』、『此の方が尙ほよいやうだ』、『今一息といふところだから勉強なさい』と、獎まされるならば少女もその心を理會して自分の賞められた一針にいひ知れぬ力と希望と自我の強味と名譽とがこもつて何でも今一息といふところを奮發してやりたいとの心にもなり上達する動機ともなるのである。

けなしけなされて失望し、やけを起して進歩しないけなし主義の教授を取るべきか、或は獎勵主義を取るべきであらうか。

三、獎勵主義たるべし

これに就て面白い話がある。余輩の知人に紐育の小學校で教師をして居る米

國婦人があつて七、八歳の少女を教育した。

同じ程度の二人の生徒に就て英習字（イングリッシュ）を教へるとき此のけなし主義と獎勵主義との教授法を比較する實驗をしたのである。

即ち、甲の女生徒には獎勵主義の教授をやる、乙の生徒に對してはけなし主義の教授法を以て二週間ばかり續けて見たのである、すると獎勵主義を以て教授せられた甲の生徒は著しく發達進歩して今迄にはない程の好成绩を挙げた、これと反對にけなし主義にて教授した乙の生徒は二週間の前も二週の後もけなしけなされた結果が殆ど何等の進歩を見ず、何の得るところもなかつたといふことである。

小學校の教授法は宜しくけなし主義を捨て、獎勵主義を取るべきである。

第十章 不器用者養成の教育

一、技藝科教授の不振

現在の日本の教育は不器用者養成に力めて居るやうな觀がある、手工などに

は随分時間は十分に當てられて居るけれども、その成績の擧らないこと到底不器用者養成たる評語は免れまい。

又、圖畫を見ても同様の感じを與へられる、習字を見ても左うである、小學校の卒業生は無理がないとしても中學校の卒業生や女學校の卒業生の手紙などを見ると實にひどいのが多い、展覽會などにはよいのばかり出品されるから現状のひどいのが表はれないけれども、實際に就て見ると目もあてられないのが多い、愈々拙字國民の養成と化して居るやうである。

東洋の美術國として、東洋の希臘とまで謳はれその手先の巧妙自在を賞揚された日本人が今日では不器用者の標本としての小國民を養成しつゝあるではないか。

二、圖畫の不成績

小學校に於ける圖畫の成績は愈々低下しつゝあるが如く、斯くて嘗ては美術國と稱せられた我が國民をして美術をアツブレシエートする力を減退せしめつつあるやうである、美術をアツブレシエートし得るものは高尚優雅なる美術

の裡に心を憩ふことが出来る、心を美術に休むることは高尚なる娛樂であるのみならず、又人間の純幸福を増さしむるものである。文明國に於ける生活は生存努力の結果人生をして單調子に陥れんとしつゝある、斯くの如く人間の幸福を呪ひつゝある文明社會に處してせめて美術をアツプレシエートする力を養ふことは彼等を慰安せしむる安全にして賢い方途ではあるまいか國民の生活に興味を添へしめ、且生活に變化あらしめ、趣味を豊富ならしむるには國民の美術思想を養ふことが必要である。

余輩の見を以てすれば圖畫の成績の舉らない主要なる原因が三つあるかと思ふ。

其の一は言ふまでもなく實力のない教員に受持たせて居ることである今日の小學教員の大部分は小學生に圖畫を教授する資格がない、教師自ら圖畫に對する興味と趣味とを解せず、手本を示せといはるれば見られないやうなものを畫く、これが手本であるからたまらない、圖畫の教員はどうしても専科教員として美術學校出位にしたいものである。

其の二は教授法の拙いことである、已にその資格すら疑はるゝ教員が拙い教授法を繰返して居る教師自らが興味を有たないのであるから生徒に興味を起さしむることは先づ不可能であらう、それで教授に熱心がない、圖畫の時間といへば遊び半分の教授で少しも教授に油が乗つて來ない。

其の三は圖畫教材の排列を誤まつて居ることである、今日の小學校では線の練習より入るといふやうな初めに抽象を教ふるが如き兒童心理に合せざる排列はして居ないかも知れないが、兒童の經驗の具體より出立して彼等の嗜好に適するものを畫かしむる心理的排列を應用したものは受取れない、單形より始むべし、とばかりで兒童の趣味にも經驗にも遠い矢張り一種の描象から初めて居るやうではないか。

兒童は兒童に取りて興味あるものを畫かんとするのである、多くは初めに人物を畫くことを好む、次には動物に移る、又動物を人類化して畫かんとする傾向があるやうである、動物は運動するところより人間に似て、兒童は之を模倣し得るから植物よりも變化に富み興味を起す原因となるのであらう、十一歳以下の

兒童は動物を好み、経験を基礎として物語等によつて想像的に畫かんとし、十一歳以上に至り漸やく實物から寫生するを好み、植物家具等に趣味を有つやうになるのである。又、一般に男兒は動物を畫くを好み、女兒は植物殊に美しい草花などを畫くを好むのである。然かるに此の傾向をも考へずして文部省の現行國定圖畫帖には尋常一學年などには無理な景色や家具などを出して居る。圖畫の教科書編纂委員には教育の實際家や多少兒童心理學のわかる人をも加へて大いに其の排列を改めなくては小學校に於ける圖畫教授の成績は擧がるものではない。

三、習字廢し得べき乎

曩には小學校に於ける習字科を廢止してはどうであらうなどいふ議論があつたやうである。拙字國民とか不器用者養成の秘訣としてはそれもよからう。今日の新教育を受けた人は甚だ惡筆で困る、小學校卒業生には葉書も書けぬ、一體小學校の習字はどんな風に教へて居るのであらうかなどいふやうな非難がある。其の矢先に習字を廢するなどはとんでもない謬見であるといはねば

ならぬ。

習字科廢止論者の中には歐米の小學校では餘り習字を教へないと言ふ例を取るものがある。併し歐米の羅馬字國民と日本の如き漢字國民とを同一にして論じてはならぬ。歐米では習字を教へないといふのは事實全く相違して居るのである。米國の小學校などでは中々英習字には力を注いで居るのである。又、歐洲の何れの小學校に於てもペンマンシップを教へないところはない。僅か二十六七個の羅馬字を用ゐる歐米各國でさへ此の通りなのであるから我國の如く多くの漢字を用ふる所に於ては尙ほ更ら此れに力を盡さねばなるまい。若し習字を廢するとならば益々拙字國民を養成することになり、非難の聲は一層高まることであらう。

更らに習字は家庭に於て練習せしむべし、學校に於て教ふるほどのものではないといふ論者があるやうであるが、今日では小學校の教科目が非常に多くなつて居るから、従つて家庭に於ける復習時間も段々と増して來た。此の上に習字といふやうな重荷を荷はせやうといふのは小學校教育の實際に迂い、又、兒童心理

學に通せない素人の暴論といはねばならぬ。余輩は習字科は現在よりも一層注意しなくてはならぬことであると信ずるものである。其れが爲めには習字に堪能なる教員を得るといふことも必要であらう。

又、一方に於ては實用的に習字させるといふことも考へなくてはならぬ。その爲めには作文であるとか、讀本中の詩歌であるとか適當なるものを細字に書かせること、又夏休み若くは春冬の休みなどには生徒から教員へ或は他の學友へ手紙を出させたり、病氣缺席中の學友へ見舞状を出させたり、又家庭にありて父母の代理として書面を認めさせるなど念を入れて書かせるやうに仕向けたなら實用的に効果が少からうと思はれる。

學校のお清書などを見ると大字は可なり書いて居るかのやうであるが端書が書けないといふのが多い。これも實用に迂い何よりの證據である。

小學校では牡丹餅大の文字は習はせるけれども一向實用向きの細字の練習が足りない。小國民を擧げて看板書きや書家心得にする必要もなからうから牡丹餅大の文字ばかり習はせる必要はなからう。尋常一、二學年では牡丹餅大の文

字から入るが自然であらうけれども尋常三、四年以上からは細字の方に全力を盡したい。吾々日常生活上細字に巧な方が實用に適つて居る。吾人の日常生活上牡丹餅大の文字を書くことは極めて稀である。此の實用にもならぬ稀に稀に用ひらるゝ牡丹餅大の文字に全力を注ぐ現代の小學校に於ける習字のやり方は改良されなくてはならぬ。歐米の小學校に於けるペンマンシップは實用を主として居るから殆ど細字に限られて居る。歐米で牡丹餅大の文字を習ふものはペンキ屋、廣告看板屋、版下書き志願者位なものである。實用向きの細字に巧妙となれば大字も相當に書け出すのであるから小學校の習字をして實用的ならしむるには須らく細字に全力を注がせてはどうであらう？ 教育家の研究に訴へたい次第である。

四、型ばかりの手工

元來小學校に於ける手工科教授の目的に二派があるやうである。即ち一は形式的陶冶を主とする形式派とでも言はうか、主として精神諸能力を發達せしめ、且製作の能力を養ふを以て目的とするのである。他の一派は實質的陶冶を揚言

するもので實用派とでもいはいはうか、主として製作の技能を養ふことに主力を致し副次的、若くは派生的に精神諸能力例へば工夫、想像の思考力及感覺機及手指の鋭敏、勞働、秩序、緻密、注意、整頓等の習慣を養ひ審美的感情を涵養せしむるを以て目的とするのである。

前者即ち形式派に従へば結局兒童の製作品をして坊間の賣品と競争せしめんとするが如きは誤れりといふに歸し、手を練習し、眼を鍛え、注意力を集め想像力を働かせ、判斷力を養ふことが出来ればよいといふのであるから、其の教授は表面的、形式一片の玩弄的、非實用的に、ほんのお慰みの型ばかりで眞似事に終るのである。日本の小學校に於ける手工は要するに此の範圍を脱し得ないやうである。こんな能力だけならば活動寫真を見せても養へるではないか。

後者の實用派に従へば兒童の製作品は凡て實用的にやらせやうといふのであるから、其の製作品は毫も坊間の賣品と甲乙はない、従つてその教授は徹底的、實質的、實際的である。歐米近時の小學校では此の傾向を呈するに至つたのである。

余輩が嘗て紐育市に米國小學校手工製作品展覽會に於て彼等の製作品を見たことがあつた。生徒の作つた椅子も机も何等實用品と甲乙はない、坊間の商品と比して何等の遜色を見ないのに一驚せざるを得なかつた。又、彼等の手に成つた竹細工でも、木工、金工、粘土細工、製本、石膏細工等見事な出來を見ては此れが十歳前後の小學生の作つたものとは思へない程の出來榮えであつた。此の立派な成績品を見せられた瞬間には吾々日本人の手先の器用な點を疑はざるを得なかつた。要するに彼等の手工は本職的である。決して日本の如くお玩具的たることを許さない。斯くの如くにして實業の帝國としての米國民に實業的精神及技能を涵養しつゝあることを忘れてはならぬ。

近來日本の商工業に於ても漸くにして歐米の新機械が應用さるゝことゝなつて手先を用ふる場合がだん／＼少なくなつて來るやうである。從來日本に於ける名物の一として數へられて居た美術工藝品の大部分までが此の機械にかかることが多くなつた。斯くの如く手を巧みに働かすべき機會がだん／＼少なくなつて來た。今日文部省が小學校令を改正して高等小學校に於ける手工の教

授時數を一週六時間に増したのは大に時運に鑑みた處置として余輩の大いに喜ぶところである。賛同するところである。併し如何に多くの時間を割當てたところで其の方法にして宜しきを得ず、其の用意にして周到を缺くならば手工科の效果をして十分ならしむることは出来まい。然るに日本の小學校では形式派に傾き實用を顧みない弊がある。坊間の商品と競争せしむるは誤れりといふのであるから生徒の製作品其物に就ては殆ど顧みられないといふ有様である。手工科に於て形式的陶冶をなすと同時に兒童の製作品が實用品に劣らないやうなのが出来れば結構な譯で大いに歓迎しなくてはならぬ。然るに之を排斥するとは何たる迂愚であらう!! こんな愚劣な考を持つて居る文部省の下にある日本の小學校の手工の成績の擧らないのは寧ろ當然であらう!! こんなことでは幾ら作らしたところが畢竟お慰みもので到底實用的にも、にはならないのである。

我國の手工科の實績の擧らない原因の一つは確かに實力のない教員にあるといひたい。米國の小學校では美術學校や工業學校出の本職家をして教授せし

めて居るから、此の本職家が製作上の呼吸を心得て、急所急所に力を入れて、手工の極秘を傳授するから生徒の成績も擧がるわけであらう。米國の手工は日本の師範學校に於て隨意科で嚙ぢりかけた先生があやしい手つきで教へるのとはよほど違はねばならぬ。日本の教員の手工教授は教育上の教授法には巧みであるが、餘り教授法を知らない米國の本職家の教授にはその結果に於て數等劣るやうである。

日本でもせめて圖畫及手工の教員だけは美術學校なり、工業學校なり出身の本職家に専科教員としてその制度を改めたい。經濟が苦しいならば附近二三の小學校をかけた持たせてもよからう。今日の如く六時間といふ多數の教授時間を用ふるに就て當局者はどの位な結果を期待して居るか知らないけれども、吾人は大いにその結果に期待したく思ふ次第である。

若し手工科の效果をして大ならしめんには手工科専科教員の制度を設けて實施に力めること、實力ある教員を採用して手工の實用的目的を達するやうに改革し努力せしめねばなるまい。

理窟にのみ巧みなる國民の増しつゝある今日、著實に働く國民を要求するこ
と大なる時に當り、手工科の面目を改め、勞作を厭はない、職業的素地を作り、手先
を器用にすることは大いに必要である。果して高等小學校に於ける毎週六時間
の手工を満足に教授し得る教員は今の小學教員に幾人あるであらう!! 從來の
手工では到底小學校の所謂工業の趣味を長せしむることも覺束ない。又製圖製
作を立派に教授し得ることも疑はしいといひたい次第である。此の點に就ては
講習會を開くとか或は専科教員を新たに採用するとか、此の方面に於ける教員
養成の法を講ずることは極めて急務であらう。

第十一章 アルファベットを教へざる

國民教育

一、アルファベットを學ばざる小國民

現在の尋常小學校では六年間にアルファベットさへ教授しないのである。又、
高等小學校に於ける英語科は廢止せられたのである。

然るに外國に於ける文化の進化は歐米を知ること日一日とその必要を告げ
交通は益々便利に外國との往來も益々多くなり、經濟上の状態は外國との貿易
をして益々發達せしめんとしつゝあるのである。國民が外國人に接する機會、外
國商品を手にする場合は日に月に頻繁となつて來る。總ての事情が世界的とな
り、世界と直接に交渉するやうになつて來た爲めに、日本に於て生産する商品に
も英字を記入するやうな有様となつたのである。

小松原文相當時小學校令を改正して英語科を廢し商業科に於て隸屬的に極
めて僅少なる時間を以て英語を教授し得ることになつた。英語を習ふ必要は日に
増しつゝある矢先に於て從來すら教へつゝあつた英語を廢止するとは合點の
行かぬことではないか。元來高等小學校の性質は完結せる國民教育を施すとい
ふことである。完結した國民教育に於てABCすら教へずに卒業させたならば、
其の卒業生が社會に立つ場合の不便はどうであらう。羅馬字で書かれた停車場
の名も讀めない、一寸した商品を買つても記號が分らない、新聞雜誌、著述などに
挿入された簡易な英語も理解することが出來ない、普通の談話や演説の間にチ

ヨイ／＼用ゐらるゝ日本語化した英語すら分らないといふ不便を感せねばならぬ斯くの如き國民を養成することが果して時代の要求に適した教育といひ得るであらうか。

二、英語教授の不振

高等小學校に於ける英語を商業科に入れ、一週に僅か一時間若しくは二時間の教授を行つてどれ位まで上達させ得るであらうかといふ期待し得べき結果に就て考へねばならぬ。而もその教授する教員が師範學校出身の覺束ない先生であるとしたらどうであらう。或は商業科の専科正教員を備ふとしたところで、此の人々は大部分に於て發音も正確でなく、外字新聞も讀めず、外國人との會話などはほとんど出來ぬ教員であるから、其の效果は甚だ危ぶまれる次第である。

勿論高等小學校に於ける商業科の英語の望みは大したことではあるまい。併し、文部省の訓令には「英語は商業中に加へて之を授くることを得しめ該科目をして實用上一層適切ならしめんことを期せり」とあるからには此の短時間と雖も最も實用的に英語を修得せしむべく特別の用意と多大の注意とを必要とす

るのである。然るに此の用意も出來て居ないやうである。殊に農業地方に於ては商業を授けないであらうから此の地方の高等小學校ではAの字さへも知らせないで卒業させなくてはならぬ不都合を生じて居る。

前述の如く高等小學校の英語を必須科ともせず、隨意科ともせず、辛じて商業中の一部たることを得しむる位に厄介視し冷遇して置いて實用上一層適切ならしめんなどは思ひもよらぬことである。

三、尋常小學校に於ても英語を課すべし

今は亡き哲學者、心理學者ウイリアム、ヂェムス博士は外國語は二十歳以前に於て學修することを要すと證明して居る。吾人の經驗からいつても二十歳過ぎから學んだ第二、第三の外國語は今日から考へて見ても成功はして居ないのが多いやうである。語學は早年に於て學ぶべしといふ事は一般に同意するところであらう。外國の小學ではラテン語若しくは希臘語及近世語として英、獨、佛、伊、西の内一ヶ國語を選定して課して居るところが多い。

日本の文明が大いに西洋文明の賜ものである以上、又今日益々歐米との交通

が旺んとなりつゝある以上、國民教育を施す尋常小學校に於て實用英語を教ふことは非常に必要なることであると信するのである。

尋常小學のうちでも進んで中學校、高等女學校等の教育を受けんとするものには殊に英語の素地を作つて置く必要はあるであらう!! 小學校を卒業して中學校及高等女學校に入ると俄かに教科目の數と教科の程度が高くなる、新らしい外國語が加はる中學及女學校の新入一年生には餘程の激變的重荷である、中學校で落第するものゝ多くは英語の不成績な爲め、新しい外國語の學修に大部分の時間と精力とを奪はるゝ爲め他の學科に注ぐべき精力と時間とがないといふ點にあるやうに思はれる、然らば中學校に入る志望を有する生徒に對しては尋常三、四年の頃から極初步の簡易實用を主として英語を授くることは必要であらう、又尋常小學校だけで教育を終らんとするものに對しては尙更英語の初步を教授して置く位の親切心はあつてもよからう!! 國字を羅馬字にすべしとの議論さへある今日小學校の英語は是非加設したいものである。

第十二章 劃一的に特色なき學校

一、何ぞ特色を發揮せしめざる

劃一を打破せよ、といふ議論は此頃切りに世人の口から漏れるやうになつた、エリオット博士が劃一ならぬ米國の本場と日本の教育の極端な劃一制とを比較したのであるからコントラストの面白かつたのは痛快である、今少し日本の學校も各自の特色を發揮するやうに努力したらよからうと思はれる。

米國ヴァージニアの大學では自治、勞働を主として教育して居る、中學校から大學の業を卒ふる迄學校では學生に半日宛の勞働を課するのである、午前は學修し午後は勞働し、夜は自修するといふ面白い組織である、學生は此の半日の勞働を以て學資を得るのであるから單に苦學生に對しての福音であるのみならず、大いに獨立、力學の大精神を實行せしめつゝあるのである。

學生等が大學の田園に培養したポテトは市場に賣捌かれ學生の手に成つた農作物はやがて通貨に換へられて彼等の學資となる次第である。

又、マウントハーモン在の中學校なども確かに特色のある學校の一つとして數へられねばならぬ。此の中學校では入學の當初金五十弗を納める、此の五十弗を納めさへすれば一ケ年間在學を許される半日勞作して半日學問する制度で一仙の食費及學資をも徴集しないのである。

紐育市には倫理學校 (Ethical Culture School) といふのがあつた。幼稚園、小學校、中學校程度の男女を教育するのであるが道徳教育を以て教育の根本となし、倫理科を重要視して主要なる獨立的一教科目として居る。又、中學部には普通學の外に印刷、手工、鑄工、女子の爲めには料理、洗濯、造化、裁縫をも教授して居るのである。此の學校では道徳的品性の涵養と普通教育並に職業的技能及知識を授くるを以て目的として居る。此の學校の校長は萬國倫理教會長としてその名高きアドラ博士である。

教育の峯に登るには必ずしも國定の單調な一本筋の道を辿らねばならぬことはあるまい。東の麓から登るもよからう、西より或は南、北の口から登るものもあつて然るべきであらう。斯くの如く多方面から色々の研究や經驗を積むがよ

いのである。

小學校にも女學校にも中學校にも師範學校乃至は實業學校にも毛色の變つたいろ／＼のタイプの學校を作るがよろしい。教育の方針、經營の方法共に各自の主義の上に立つていろ／＼とやつて見るがよいのである。斯くして各學校は各自の特色を發揮するのであらう。毛色の變つた學校が各自の特色を發揮することによつて教育の經驗は益々豊富となり、茲に教育上の進歩あり、活氣を生ずるのである。極端な劃一制度の爲めに手も足も出ない教育監獄のやうな沈滞した我國の教育界に生氣ある空氣を興へて各自の面目を改めしめ、特色を發揮せしめ、進歩せしむることは目下の急務たることを失ふまい。

最も特色のある學校としてはデヨーデ氏の青年共和國といふ毛色の變つた學校の經營せられつゝあることを次に紹介して、劃一づくめの我國の教育界に刺戟を興へたいと思ふのである。

二、デヨーデ氏青年自治教導團

青年自治教導團 (Junior Republic) はウイリアム、デヨーデ氏によつて一八九五年

紐育フリーベルの片田舎に創立せられたもので、爾來幾多の經驗を積み改良を加へ以て今日政治的、道德教育を施す普通教育程度の有名な學校として教育界一般の認むるところとなつたのである。

實際的、社會的教育とでも言はうか、米國の共和政體に順應すべき善良なる市民を養成するを以て目的として居るのであるから、青年自治教導團を一個の模型的國家(米國)を縮小せし一つの模寫的國家たらしめ、縮寫された米國としての青年自治教導團では立法部及司法部より成る共和的政府を設け、生徒たる市民中より選ばれたものが大統領となり、大統領は判事、檢事、巡査等を任命し、以て國家としての學校、市民としての生徒の安寧幸福を増進せしめんとするのである。此の青年自治教導團に於ては小學校及中學校程度の普通教育を施し、傍ら職業教育(土木、印刷、大工、家具、製作、雜貨店、洋服屋、左官、鍛冶屋、洗濯屋、パン屋、肉屋、乾物屋、銀行等)を興ふといふのである。

學校は午前(或學級は午後)の半日をば普通教育に當て午後(或學級は午前)の半日は實地の職業——各自の志望によつて定められた——に従事させ、實際的職業教

育を施す制度である。即ち半日は勉強し、半日は勞働するといふのである。デョーヂの考では職業を習ふには年少時代に或時期がある。此の時期を逸しては到底本統の實務家にはなれない、假令大切な教育の爲めとあつても此の實務に通ずるに最も必要な時期を失せしむるが如きことがあつては生涯取かへしのつかぬ大損失であり、個人の不利益であるのみならず、又國家の大損失である。信じて居るのである。此の點は實業家等が小僧上りの方が學校出よりも使ひ易い、間に合ふといふ説に一致して居るかのやうである。要するにデョーヂは職業を學ぶべき時期を教育の爲めに逸しつゝある今日の大缺點を暗示し痛論して居るのである。此の點は大いに吾人が攻究せねばならぬところであらう。

人生の基礎は勞作にある。勞作なき人生は虚である、との立脚地に於て市民生徒の年齢、長幼の別なく、何人も天能に適した職業に従事せしむるのである。市民の勞働賃金は一時間約十仙である、併し職業の種類及技術熟練の程度に應じて勞銀に差異を生せしむることになつて居る。勞働時間は普通毎日五時間(日曜日及休日を除いて)以内と定めて教導團に於ける授業時間の都合によりて之れを

定めるのである。

市民は自分の勞銀を貯へて自分の宿料、賄料、税金、洗濯代、被服、日用品、文房具等の支拂をなすのである。毎日の勞銀は團内の國立銀行に預金をなし小切手を以て此等凡ての支拂をなすので一般の社會に行はるゝ金錢收支の實狀と少しも異るところはないのである。

此處では學校と言はずして青年共和國(此には青年自治教導團として置いた)といひ生徒と呼ばずして市民と呼ばせて居るところは實社會的である。

完全なる生活をなし、適當なる職業を求めて自治自活、敢て他を煩はすなく、寸毫も他に信賴せず、獨立自己の社會的目的を忠實に實現するに力め、且、國家社會の有用なる一員として盡し、國家に對する市民の義務を履行し、學校生活をして何等實社會の生活と異るところなからしむるのである。斯くして漸次社會的生活に慣れさせ、獨立的に働きつゝ、社會に對する義務を盡す善良なる市民を作らんとして居るのである。此の年若き市民は道德教育、普通教育、職業教育、政治教育を與へられて實社會の生活に最よく慣れた完全に市民として訓練された第二

の市民なのである。

市民にして此の青年自治教導團の法律に違反する行爲をなし、巡查に捕縛せられたならば、茲に彼は犯罪者若くは嫌疑者となるのである。即ち團内の裁判所に移され、判事は彼に法を適用し、公判を開き、罰の宣告を與へる。刑の重きは監獄に服役させるのである。二日間の拘留に對しては出獄後二週間の監視、三日間の監禁に對しては出獄後三週間の監視に附せられる規定なのである。此の監視中は市民としての権利を行使することを得しめないものである。即ち市民として大統領を選擧する權、市民として公吏に任命さるゝ權、市民として圖書館に出入する權、市民として團外に外出、旅行する權利等は凡て監視期を終るまで一時その行使を停止されるのである。此の監視の期間中市民としての權利の行使を停止されることは他の市民と同一の行動を取り得ざる痛切なる感じを與ふるのである。此の制裁の效力は著しいものがあるさうである。即ち此の監視中には如何なる不良兒と雖も、再び惡事をすまじと固くわが心に誓ひ全く別人となつたかの觀を呈するといふことである。チョーヂの言葉をその儘用ふるならば一度監視に

附せば大概の市民は歩き様が變つて來るといつて居る。感化院とか不良少年教育所などにはもつてこいの制度である。斯くて教育上の制裁及罰は最公平に而も嚴重に行はれるであらう。随分小學校の生徒中にも一時間位留置いて校長が訓戒した位では改悛しないのがある。こんな生徒には感化を目的とした罰や制裁も必要であらう。

此のデョーデ氏の青年自治教導團は初めは、不良少年の方が多かつたさうであるけれども漸く中流以上の子弟も加はることになつて、今では不良少年の生徒は寧ろ少なく普通の生徒の方が多くなつたのである。

三、ギル氏市政學校

デョーデ氏の青年自治教導團と殆ど同一の精神を以てギル氏は市民教育を施す市政學校 (School City Charter) の建設を唱導して居るのである。善良なる市民を養成せんとて市政を立法及司法に分ち、市長は選舉せられ、判事、會計、書記、巡查を任命するのである。斯くして政治的、道德教育を施す様式はデョーデ氏の青年自治教導團の其れと大差はない。ギル氏は嘗て米國の新領土玖瑪の小學校に此

の市政學校の制度を應用して、彼等に米國の政治教育を具體的に教訓して好成績を收めたのである。若し日本の政體を學校教育の實際制度に應用して、朝鮮、臺灣、樺太等に行ふなどは頗る妙であらう。要するにこの市政學校の如きは殖民地教育として國家的政治を理解せしめんとするにはお誂へといつた形である。米國の公立小學校ではポツ／＼此の市政學校の制度を採用する様になつて來た。レイ氏の政治的市民教育法はシカゴ市に於て同様の方法を以て行はれて居るのである。

四、政治的、道德教育に對する批評

以上に述べた政治的、道德教育に對して非難するものもある。而もその非難の主要なる點は次の諸點に歸するやうである。尙ほ之れに對して政治的、道德教育論者は如何に答へて居るかを併せ記して見やう。

(一)『政治的、道德教育主義者は現政體である共和主義を以て理想として居る。そして之れを摸寫せんとして居るやうである。けれども米國今日の共和制度は決して吾人が許して以て完全、圓滿なる政體とすることは出來ないではないか。現

在の我共和政體既に不完全であるとすれば、何を苦んで斯くの如き不完全なる政體を理想として摸寫し、之を標準として教育のことを律するのであらうか、其の愚、その理想の低き寧ろ笑ふべきである、教育上の高遠なる理想は只にこれしきの現實を以て満足すべきではあるまい。』

これに對して政治的道德教育論者は次のやうに答へて居る。

『評者の言一理あるやうであるけれども、共和政は米國人が今日有する知識を以て思慮、實行し得べき最良の政體である、米國人としては現在のところ此れ以上の善良精美なる政體の提供せられざる以上、吾人は先づ現在に於ける最良の政體としての共和政體に服すべきである、勿論吾人と雖も現在の共和政を以て完全と呼び、圓滿と賞し、理想的政體として之を謳歌、憧憬するものでは斷じてないのである。』

(二)『大統領や市長などを選舉することは少なからぬ時間を要する、一體教育以外の施設に貴重なる教育上の時間を徒費する嫌があるやうに見受ける、此の點はどうしたものであらう。』と、此の非難に對しては『三ヶ年目に一度即ちエレクシ

ョンダーに於てのみ大統領を選舉するといふに止まり、而もその選舉には僅々二時間以外を提供すれば足ることを實驗して居るのであるから敢て之が爲めに多くの貴重なる教育上の時間を徒費する譯ではあるまい、此の僅少なる時間を以て政治上の要義に通せしむるものであるとすれば、教育上最廉の提供といつてよからう。』と、答へて居る。

(三)『政治的道德教育に於ては或子供が他の子供に命令し、拘引し、罰せしむるのであるが、或子供に他人の子供を罰せしむるが如き權利を與ふることは如何であらう、神の眼から見れば凡ての子供は平等であらう、然らば神は一人の子供に他の子供を制し、罰するが如き權利を與へたものではあるまい。』と、此の非難に對する政治的道德教育論者は次のやうに答へて居る。

『成る程神はある子供に他の子供を制し、罰する權利は與へなかつたか知れない、併し、それが團體の契約であり、民約で成立した約束であるとしたならば、之に服従するに不服、不公平を鳴らすことは出來まい、これ却て多數の幸福を庇護し、安寧を保持する所以の道であるから、此に服従するは寧ろ當然である、絶對の神

の眼には萬人は平等であらう。而も或人は支配者となり、治者となり、他は被支配者、被治者とならねばならぬ次第ではないか。これが社會及國家の民約である以上、敢て反對せらるべき性質のものではあるまい。

四、『法律的良民は或は養成し得るかも知れない。けれども道德的自由の市民を養成することはどうも覺束ないやうである。道德教育の理想は政治以上に卓越しなくてはなるまい。』との批評に對しては、『政治的道德教育を施す凡ての施設は道德教育を施すの手段である。道德を目的とし、品性を涵養せんとして即ち手段として政治的、社會的、實際教育を施すものである。』と答へて居るのである。

五、政治的道德教育の長所

政治的道德教育論者が自らその長所、利益として數ふるところは概ね次の諸點にあるやうである。

- 一、獨立、自治の觀念を養成し得ること。
- 二、社會的感情を養成し、市民としての感情を温むることを得ること。
- 三、學校の校舍及所有物を保管せしむるに便利なること。

- 四、市民の義務として他生徒の權利を尊重せしめ得ること。
- 五、社會の實狀に通せしめ、兼ねて社會に對する興味を増さしむること。
- 六、社會的義務心を養成し得ること。
- 七、學校の事業を助成せしめ得ること。
- 八、道德、衛生、法律等の規則を遵法せしむることを得ること。
- 九、教育上服従の美德を養成し得ること。
- 一〇、教育及政治の趣味を養ひ得ること。
- 一一、愛校心及學校に對する、奉公、盡忠の念を高めしめ得ること。
- 一二、野心ある生徒を善用して政治の局に當らしめ得べきこと。
- 一三、國家政治の下に市民の生活狀態を具體的に知らしめ、且、之れに習慣づけ得べきこと。
- 一四、道德的訓練を實際的ならめし得べきこと。
- 一五、師弟の關係を更らに友誼的たらしむるを得ること。
- 一六、訓育上罰をして一層適切、有效たらしむること。

一七、生徒を通じて間接に父兄を政治的に教育し得べきこと。

一八、愛國心を養成し、社會を思ひ、社會の爲めに盡す感情的動機を高め、やがて利己心を抑へて犠牲的精神を涵養し得べきこと。

第十三章 表情なき教育

一、表情に乏しき教師

日本の小學教師は稍眞面目、嚴肅に過ぎ、悶魔顔の苦い顔で階級的に高くとまり一寸官吏風なところがある。今少し快活に打解け親み易き笑ひ顔の佛様みたやうに平民的に低く出てはとうであらう。

精神教育には自然と表情を伴ふべきである。表情のない教師は生徒を動かすことが浅い。表情といつたところで落語家の色聲とか俳優の身振、手振のやうなのを指すのではない。教師の表情は最も自然的にして熱心、感激に伴うて感情が自然生理的に發露するところにならねばなるまい。此に於て生徒に對する親しみの度を加ふるのである。

教師の鹿爪らしい苦々しい顔を見ては生徒は容易に近づくべからずとなし敬遠し去るであらう!!

本統の教育は生徒に敬愛さるゝ教師でなければ駄目である。師範學校仕込の恐ろしくデグレニフワイした教師に對して生徒は或は敬遠するかも知れないけれども、敬愛されることはあるまい。威服せしむることは出来ても、心服せしむることは出来まい。斯くして小學教育は形式的、表面的の上すべりがして居るのである。

親しみ易き態度に出づれば先生は年齢こそ老けたれ、鬚こそ生えたと敬愛すべき、親むべき良友であると思はするに容易であらう。生徒の教師に對する親しみの氣分が此れまでに近づかなければ本統の教育は先づ覺束ないといつてよからう。

二、生徒を笑はせる教師

人は笑ふ動物であるとか、或る程眞面目、嚴肅一偏にては到底人生の全班を暮し得べきものではない。然らば笑ふことも人生に必要であらう。

人を笑はせるには種々の原因若くは方途がある。英語のジョーク Joke は戯語のことで笑を催さしめんとて爲された舉動、若くは言はれた言葉である。又、時には特殊なる人物、又は事物より來り、殊に頓智、滑稽の表出、言語、諧謔、諷刺、歡樂の主体若くは客體を指すのである。

滑稽とは調和を缺き、原因、結果の複雑なる顛倒、真理の他面的觀察等より來るもので、其處に深き意味がなくてはならぬ。併し、駄洒落なるものは野卑、單に言語上の誤謬、曲解、同音異物等より來るもので、其處に何等深い意味を含まないのである。駄洒落は砂糖の如く滑稽は羊羹のやうである。甘き味の一時的にして残らざる駄洒落に比して滑稽の味は漸有的にして玩味して初めて其の高尙なる甘味を知る。駄洒落は口若くは顔に笑ひ、滑稽は更らに精神に笑ふのである。駄洒落は淺薄で、滑稽は深刻である。世に所謂滑稽なる人といふのは多く駄洒落の一派で必ずしも滑稽に富んで居るのではない。滑稽には深き意味がなくてはならぬ。滑稽は文學、詩歌に現はれ、歐米ではユーモリストの文學として賞せらるゝ所以なのである。

三、生徒を笑はせ得ざる教師は不幸なり

生徒を笑はせることの出来ない教師は不幸である。不幸であるといはんよりは寧ろ感情教育の任に當る資格のないものである。併し生徒を笑はすにも種々な方法がある。駄洒落を以て笑はすが如きは未だ以て教育上満足すべきではない。教育上若し生徒を笑はすべくんで滑稽の方面から來なくてはならぬ。

駄洒落の方面から生徒を笑はせる教師は、教師の笑を以て始まり生徒の口を開かしむるに終る。唯僅かに顔面を動搖せしむるに止まり顔の上の笑に過ぎないのである。之に反して滑稽の方面より來たものは教師の眞面目より入つて生徒の口を閉ざさしめ、精神に笑はしめるのである。駄洒落は其の場限りに消ゆるに反して滑稽より來た笑は將來に向つて精神に影を止めるのである。

滑稽は一種の天才であるけれども、教師の修養如何によつて滑稽の趣味を發揮し得るものである。わが曾呂利、一休乃至は芭蕉などは滑稽の人に近いかと思はれる。就て學べば随分そのヒントを得ることであらう。

滑稽は事物の形容、比較に通じなくてはならぬ。而してその事物の真相を看破

して他と比較し、それを形容するに奇抜でなくてはならぬ。滑稽には事物の眞知識を得るため多方面からその對照を注意周到に觀察することが必要である。

四、笑靨の教育的價値

笑靨のない感情教育は決して成功しない。滑稽より來た笑は興味の母となり、興味は注意を生み、注意は記憶、想像、判斷、推理の母となる。然らば笑靨は興味の母であり、注意の祖母となり、又、記憶、想像、判斷、推理等の遠き先祖の母となる譯である。

笑ふ門には興味來るのみならず、實に笑靨は感情教育の源をなすことが多い。心の笑ひは主觀を刺戟して快、喜、愛、樂、好奇心等の感情を發動せしむるのである。徒らに笑はしむる勿れ、眞に笑はしめよ。顔をのみ笑はしめずして、心を笑はしめよ。

五、生徒を泣かしむる教師

教師は時々生徒を泣かせなくてはならぬ。如何にして泣かすべきであらうか。打つか、たたくか、然らすんば叱るか。

打つを止めよ、たたくを止めよ、徒らに叱るを止めよ、生徒を打たず、たたくかず、叱らず、而も尙ほ生徒を泣かせよといふのである。

叱らず、又、荒き手を加ふることなくして生徒を泣かしむる教師は必ず教育に成功するのである。

歴史と修身とは涙の記録である。一部の文學、國語、社會學、哲學、倫理學、政治學も亦涙多き記録ではあるまいか。修身と國語、歴史を以て生徒を泣かすことである。情に訴へて心に泣かすのである。

善人の迫害、聖賢の悲惨、忠臣孝子の遭難、勤勉家の苦業、善と惡との惡戰、正の邪に恥かしめらるゝ、弱者の強者に吞まるゝ、犠牲の雄々しく悲慘なる、これ皆生徒をして泣かしむる好資料、活教材たるを失はないではないか。

六、生徒を泣かしめ得ざる教師は不幸

生徒を泣かしむることを知らざる教師は生徒を笑はしめ得ざる教師と同じく不幸で、感情教育の任に當る資格に乏しいものといひたい。

楠公の訣別、四十七士の苦戰、忠臣武士の戰死、孝子の苦心、努力等を説くに教師

の謹慎、同情、沈著の態度を以てし、心の涙を以て泣いて語り、生徒の心情に來往して説くならば、生徒も必ずや泣くであらう。否、肺腑より出でし寸鐵の金言は遂に生徒の肺腑に達しないことはあるまい。

未だ嘗て生徒を泣かせたことのない教師は先づ退いて人をして泣かしむる修養を積むべしである。徒らに歴史、修身、格言の空暗記は何の將來を益しやう。十の空暗記よりも涙を有する三つの記憶の勝れること多きを思はねばならぬ。徒らに泣かしむる勿れ、真に泣かしめよ。涙を以て泣かしめずして心に泣かしめよ。

七、涙の教育的價值

此にいふ涙とは精神に泣いて出づる心の涙、即ち感情の動哭である。決して心なき眼の涙、そら涙ではない。涙なき人生は虚であり、涙なきライフは輕薄である。又、涙なき教育は精神のない上りの教育である。泣かしむることを知らない教育は頼りないものである。感情教育の目的たる自尊、他愛、同情等の情緒及び道德的、美的、宗教的情操も亦此れ實に涙の賜ものに負ふところ極めて多いのである。

涙なき宗教は眞の信仰に達しない、泣かなかつた倫理は未だ眞の道德的行爲に出でない、涙に乏しい文學、美術は未だ以て審美、深刻の極に達しない。原始的感情の快と不快とは實に笑靨と涙との心理作用である。

八、教育上に於ける涙と笑靨

人生は或意味に於て涙と笑靨との相互的發作々用である。泣くときには笑靨は蟲を殺して笑はうともしない、之に反して笑つて居るときには眼はバチクツして些の水氣がない。此の場合顔に體操させても決して涙は出ない。安心とあつて好い氣になり益々笑ふ、笑靨愈々深し、その證據には歴史あつて以來笑靨のところへ涙が雫れたといふ記録、傳説の據るべきものがない。涙と笑靨とは一日に於ける晝夜、或は廻行燈のやうである。

ゼームス、ラングの説によれば泣く故に悲しき也、逃ぐるが故に恐ろしき也、笑ふが故にをかしき也と結論して居る。

併し、泣き眞似したり、又は欠伸したる節過つて涙の一滴も出ることがあるけれども、別にそれがために悲しくなり、それでは改めて泣いて見やうなどとは思

はないではないか、又、をかしくもないのに作り笑ひ、真似笑ひ、若くは人のを真似て貰ひ泣き、貰ひ笑ひなどすることがあるけれども、先づ心にをかし、かなしと來なくては十分に泣き、十分に笑ふことは出來ない。併し、をかしきことあり笑ひ初めては笑へば笑ふほど益々をかしくなり、笑ふ笑靨をかしき心を助くるやうである。又、かなしきことがあつて泣き初むるときは泣けば泣くほどかなしくなり、泣きの涙はかなしき心を一入強むるやうである。併し、教師は先づ笑靨の動機たる滑稽を生徒に與へ、然る後笑はずべきである。又、教師は先づ涙の種としてのかなしきことをかなしき素振や調子で熱心に語り、生徒にかなしみを起させたる後涙の力をかりて大いに心に泣かしむべきである。

著者は教師に對して生徒を笑はしめよ、泣かしめよと主張するけれども、徒らに笑泣せしめよとの意味ではない。毎日笑ふたり泣かせたり、教場を涙と笑靨との製造所たらしめ、泣き蟲、笑ひ子を養成すべしといふのではない。唯、適當なるときに泣かしめ、適當なるときに笑はしめよといふのである。笑泣は實に教育家の手腕、呼吸で、感情教育の完成を促すものである。泣くべきときに泣かずば泣か

ざるにまさる悲しみあり、笑ふべときに笑はずんば笑はざるに勝る恥がある。

うきこともうきに慣れてはさまでうきとも感じなくなるものである。感情の性質としていつも、笑つて居ては本統にをかしきとき笑ひそこね、又、いつもいつも泣かせて置いてはいざといふとき涙が出ず、若くは餘り上手に泣き過ぎるなど素より感心ならぬことである。感情は繰返されて褪せる、此點感覺の練習と間違へられては困る。折々極めて稀にとつと笑はせ、しつとりと泣かすべきである。

中世の教育は困難、苦痛を以て成功し、涙の教育の賜ものであつた。併し、近世の教育は笑靨の教育の賜ものといふべく愉快に教育を成功させんといふのである。シドニー・スミス曰「汝若し今日子供をして笑はしめんか、汝は向ふ二十年間子供を幸福ならしめしもの也」と。笑靨の教育も亦必要であらう。涙と笑靨とを利用して感情教育の實果を擧ぐべきである。その匙加減に至つては教育家各自の手腕に待たう。要するに自然の表情は教育に必要な譯なのである。

第十四章 職業教育に乏しき小學校 及中學校

一、職業教育の必要

小學校及中學校、高等女學校に於ける教育は何等職業教育に接觸しなくともよいであらう乎。此れは普通教育上重大なる問題である。

日本の小學校、中學校及高等女學校では何等職業教育に觸れて居ないのであるが、果して此の分にて宜しきかは、大いに研究しなくてはならぬ。

宜しく手を教育すべしと説いた教育家にはベスタロッヂあり、又、フレイベルも所謂動作の教育といふ説をなして大いに手の教育の必要を唱導したことは教育史の教ふるところである。學理上に於ても、亦實際の上に於ても手の教育を必要と感じながら尙ほ此の方面の教育を等閑視した傾向があるのは寧ろ不思議なほどである。

眼、口、耳の教育は要するに讀書の二字に落ち、讀んで視る力、讀んで聽く力、視て

書く力、聽いて言ふ力とを養ひ、間接に精神諸能力を發達せしむるものとせられて居る。併し手の教育より出立する手指の運動は直ちに精神的諸能力に訴へ、手は精神的工夫の命に従つて動き、その方向、その運動一に主腦の令を奉じ、その一舉手、一把捉皆これ心の方策に出でざるはないのである。心の命に従つて手動き、手の働くところ必ずや精神作用を起す、手の運動は直ちに精神作用を生じ、精神作用は外部に表はれて手を上下左右に自在するではないか、此れを教育に利用しないのは以ての外のことである。實に手は活きた眼である、手は最有辯なる口である、手は最鋭敏なる耳である。然らば手指は最忠實なる精神的活動の履行者であるといはねばならぬ。

抑々現時の社會は實業の世界である。實業の時代に産れ、實業の世界に生き、實業の空氣に生育する者である以上、何人も實際生活上實業と沒交渉たることを許されないのである。小學兒童中十の八九までは懸て實業の世界に入り、彼等の手を勞して生活すべき運命を持つて居るものである。然るに手を教育しないのは何故であらう!!

手工は職業教育の入門である。基礎である。圖畫は手指をして實生活上の運動に慣れしむるものである。農工商の實習は手を練つて子女をして働きの人たらしむるものである。

手の教育は頭を教育する最良安全なる方策である。現時の教育中等閑視されて居るものは實に此の手の教育なのである。

職業教育の目的は多數兒童將來の要求に従つて實際生活に最必要である教育を施す點にあるので、スネッドソンの所謂「職業教育は自己存在及生存力の要求によつて意識的に決定せらるゝ習慣、熟練、知識、評價及理想の養成を意味す、手工は此の職業教育の一部分で、タイプライター、市政、商工の業務と雖も亦その一部分である。此の職業教育は一般教育と相結んで初めてその効果を大ならしめ得るのである。吾人の要するところは一般教育と職業教育とを巧みに結合し、専門の職業を一般の教育によつて其の基礎を確實に擴張させるやうに教育すべきである。」といふのである。

以下獨逸及米國に於ける小學校及中學校に於ける職業教育に就て述べて見

やう、然らば日本の小學校及中學校に於ける此の方面の教育が如何に遅れて居るか、わかるであらう。

二、獨逸の職業教育

一九〇〇年以來獨逸のミニニヒに於ては小學校程度の實業教育を與へんとし、一九〇七年には三十八種の異つた職業を教ふることになつた。即ち一九〇一年には散髪科を初めとし、肉商、靴職、麵麩職、煙突科を設置した。又、一九〇二年には樞夫職、牧畜、園藝、菓子、車輪、鍛冶、洋服、寫眞、室内裝飾、ペンキ材料製造科等設けた。越えて一九〇三年には旅館及料理店給仕、卸車、ペンキ屋、經師、製本、暖爐据附職、置時計製造、懷中時計製造、寶玉、金工、銀工科等を開いた。

更らに一九〇五年には職工、銅工、ブリキ、栖物、馬具、水管科を置き、一九〇五年には革職科を開き、翌一九〇六年に於て印刷、活字、彫刻、建築鐵材、裝飾鐵材、鐵工、小細工、器械、家具、左官、石工、大工科等が設置されたのである。

嘗て獨逸エルワートの學會から賞を懸けて『小學校卒業生が軍隊に入るまでに善良なる市民たるに必要な教育方法如何』と問うた。之れに對してスタット

教科	時間	
	第一、二、三級	第四級
宗教	—	—
數學及簿記	—	—
商業作文讀方	—	—
の市 人 生 と 研 究 て	—	—
圖 畫	(甲) (大工) 三六 (乙) (家具) 六六	(甲) (大工) 一 (乙) (家具) 一
實地練習	(甲) (大工) 二二 (乙) (家具) 二二	(甲) (大工) 二二 (乙) (家具) 二二
計	(甲) (大工) 九二 (乙) (家具) 九二	(甲) (大工) 八八 (乙) (家具) 八八

此の内、市民としての人生研究といふ教課の中では個人衛生、權利及義務、商人としての權義、行爲、商業史、獨逸商業運搬及交通の狀態、資本及勞働等に就て成る可く具體的に教授するといふのである。

三、米國の職業教育

(一) 職業教育の新唱導

實業の世界に卓絶し、ブライスの所謂民富の米國は如何にして農工の産を興し富國の名に反かざるに到りしかは少くとも吾人に興味ある問題の一つであらう。

米國の實業教育が倫理的根柢として與へた職業道德は決して先進英國に及ばない、又、米國の實業教育組織は殆ど完備せりと世に稱せらるゝ獨佛の敵ではない、更らに佛國實業教育の實際的、獨逸の教授法の綿密な點には到底米國の實業教育は道を避けて近づくべからざるかのやうであつた。

米國は實業教育を興ふることなくして能く其の實業の發達を見なければ、之を歐洲に適用することは出来ない、何となれば兩者の實業狀態は天地の差があるからである、耕されない國と、已に耕された土地と、未だ開拓されざる自然の富を藏する土地と、人工を以て富を作らんとする國ありとすれば前者は米國の實業狀態で勞すること少なくして得るところは大である、然るに後者としての歐洲諸國の實業狀態は勞すること多くして米國に比すれば其の得るところ過半にだも達しない、斯かる自然の富限を藏する米國では半智にして富をなし、實

業上平定せられた。獨佛あたりでは全智にして尙ほ富をなすに苦しいのである。併し自然の富は無盡藏ではない。肥えた農地も瘦せる時がある、地中の礦物も盡きる時期があらう、山岳の樹木も伐られては陰なき域に達することもあらう。米國が歐洲諸國現在の平定された困難な實業狀態に達するのは單に時の問題で、必ず幾歳かの後には歐洲諸國の現狀に髣髴たる域に陥るの運命を有つて居るのである。賢き米國の覺醒すべきは正に此秋である。樂天、誇尊の米國も流石に自國將來の實業を精察すれば遂に此悲觀的結論に到達せざるを得ない。此の悲觀は實に米國の職業教育を振興せしむる動機となつたものである。

最近數年間に於ける米國實業界の覺醒は米國商工業界及教育界の奮起と相合して『吾等は大いに職業教育を興すべし』との一大警語となり、米國の教育雜誌や新聞雜誌は多少之れに就て説かざるなく、陳腐なる實業教育 Vocational Education の舊語を捨て、更らに人生に最も切實なる職業教育 Vocational Education の新套語を用ひ熾んにその必要を説き、方法及設備に就て述べるのである。

以下項を追うて米國教育中新しき唱導の一つである職業教育に就て紹介し

て見やう。

(二) 兒童退學率の研究

一九〇八年米國教育局よりの月報としてコロンビヤ大學教授ソーンダウイック博士研究の結果に係る『學校生徒の退學』なる一書が出版せられた。博士は米國十有餘州と三十餘市に亘つて諸公立學校生徒の退學率を詳細に調査し、人口二十五萬以上あつた都會の小學校は初學年に百名の生徒が四年級に於て九十名となり、五年に於ては八十一人となり、六年に到つて六十八人となり、七年に於て五十四人となり、最後の小學校第八年に於ては四十人となる。中學校の一年級に進むときには二十七人となり、第二年級に於ては十七人となり、三年級に於ては十二人に減じ、第四年級になつては僅かに八人までに減退したといふのである。

博士は更らに此の統計的事實を推論して次のやうに結んだのである。

(イ) 小學校生徒百名中少なくとも二十五名は最も簡易なる英語を辛じて讀書し得るを待つて退學す。

- (ロ) 小學校生徒にして中學校を卒業するもの、比例は十分の一にも足りない。
- (ハ) 修業年限七箇年以上の小學校を卒業する者は三分の一にも足らない。
- (ニ) 退學する小學生徒の過半は國史、文學、化學に就て知る所がない。
- (ホ) 市立中學校百名の女生徒に對して男生徒は七十五名の比例であるけれども中學校最終の學年に於ては男生徒よりも女生徒の退學するもの六割以上である。

(ヘ) 二十歳に達しても實際的職業教育を授けないのは餘り遲きに失するのである。

(ト) 退學の一大原因は現行小學校の教科が多數の生徒を満足せしめないといふ點にあるやうである。

尙ほ博士が統計した生徒の退學表は次のやうである。

第一表 學年と退學率	九
小學校第四年より五年迄に退學する者	九
小學校第五年より六年までに退學する者	一三

第六年より七年までに退學する者	一四
第七年より八年までに退學する者	一四
第八年より中學一年迄に退學する者	一三
中學一年より二年迄に退學する者	一〇
中學二年より三年迄に退學する者	五
中學三年より四年迄に退學する者	四

第二表 學年と退學增加率	
小學校四年より五年	五
五年より六年	八
六年より七年	六
七年より八年	八
八年より中學一年	八
一年より二年	七
二年より三年	五

第三表 學生の年齢と續學比例表

十歳	一〇〇、
十一歳	九八、
十二歳	九七、
十三歳	八八、
十四歳	七〇、
十五歳	四七、
十六歳	三〇、
十七歳	一六、五
十八歳	八、六

ソーンダウイック博士研究の學生退學率の統計は米國教育制度が多數兒童の希望に副はないといふことを證明し、従つて制度に缺陷あることを意味するものといつてよからう。

斯くの如く夥しい退學率を示す所以のものは生活状態と實業状態との變化より來る社會の現象である。兒童の退學には種々な原因があらうけれども、米國政府では主として次の三點にその原因があるものとして次の三方面から改善救濟の策を講じて居るのである。

- (イ) 家の貧なる爲め到底初等教育を完了し得ない。
- (ロ) 學校の教ふるところと兒童が將來に向つて希望する所と一致しない。
- (ハ) 學校の教課が生徒の精神發達程度に適合せず、落第を重ねても進むことの出来ないこと。
- (ニ) 家の貧なる者に對しては夜學校、通信教授、工場出張教育等の方法を以て教育すること。
- (ホ) 多數兒童の目的とする職業教育を與へ、彼等の希望に副ふこと。
- (ヘ) 子女の能力程度に應じたる學級を編制すること、又劣等兒に對しては劣等なる學科目に對してのみ學校に於て特別な時間を設けて之れが補習教育を施し、低能兒は特別に教育すること。

(三) 社會的境遇

生存努力の度は愈々高潮に、死活問題の前には法の力もなく、義務教育の制を以てするも食ふに麵麩なき貧兒に向つて通學を強制することは出来ない。米國の教育に退學率の高いのは全く此の生活問題が大原因をなして居るのである。米國労働局の統計によれば多數の少年は十四歳で工場の門を叩き、こゝに早くも實生活の陣頭に立つものである、といつて居る。米國マサチウセツト洲に於ては二萬五千餘人の小兒労働者は年齢十四歳乃至十七歳の少年で何れも小、中學校を中途で退學し、生活の必要に迫られて職業に就いたものである。

小學教育さへ終らないやうな少年が實社會に出でて何をするであらう!! 彼等の多くは諸會社、事務所、官衙の給仕となり、或は車掌、御者、店小僧となる、併し恐しいことには彼等が小學校で學んだところの教育は一として現職の位置を保つことをさへ助くるものではない。斯くて十九歳を一期の十代を徒らに爲すなく、得ることなくして過さしめ、何等生活力を増さしむることはない、憐むべきは彼等少年で、罪すべきは社會の不完全なる制度と人の子を誤つた教育組織で

あるといひたい。

産業の米國、實業のアメリカ、企業の世界としての合衆國は社會的生存の競争愈々劇甚の度を高め、學童の社會的周圍は悠々として靜學の念を浮べしめないのである。又、活社會の繁忙、苦戰の境遇は幼き子女の小さい胸を刺し、生くる爲めにする働きの觀念と物質的要求、生死の境に於ける人生努力の觀念と交々代つて職を早きに求め、人生の行路を辿らうとするのである。米國の各州に於ける小兒労働方案は今や通過された、物質的文明は此に最悲惨なる小兒労働てふ重要な社會問題を提供し來つたのである。死んだやうな手ぬるい教育に慚らないで、活きた鋭い教育に憧るゝもの兒童に、父兄に、其の社會に充滿し以て職業教育の實施を促す直接の動機となつたものであらう。

(四) 職業教育なき不運兒

近世の商工業は科學的に進み、社會の職業は愈々分業せられ、到底商店又は工場のみには於ける見習教育を以てしては善良なる働きある店員及職工を作るには適當しない。米國の少年少女の多くは十四歳に達するや學窓に別辭をも殘さ

ないで直ちに工場の門に向ひ、商店の人となる、或は時に工場を追はれ、商店を追はれ、追はれ逐はるゝこと此に數回、甲工場に止まること二日、更らに轉じて乙工場にあること五日、丙工場に止まること四日で逐はれ、斯くの如く轉々として止まるところを知らないのである。或は甲店に止まること三日、追はれて乙店にあること五日、更らに追はれて丙店に足を止むること三日にして忽ち解雇の嚴命に接し到底商店志願の人にあらずといふ宣告を受くること數回、追はれ逐はれ轉々として店、工場を代ふること前後二十有餘回に及び、此の間歲月を徒勞すること一二年、而も何等の得るところなく、唯、痛切に感じたのは特別の技術なく、手に特別の教育なきものは一日も店頭に立ち得ない、といふ辛い經驗を嘗めたに過ぎなかつた。

小學校を途中で退學した米國の少年少女の多くは皆此くの如き苦しい境遇に泣いて居るのである。ハヌス博士の近著『初等實業教育』の書中には次のやうな面白い實話が引用されて居る。

「と、見れば顔に覺えのあるやうである。噫、まごふべくもなく、此の青年こそ數年

前わが小學校に生徒として通學し、われ書算の道、讀書の術をば教へたデョーデではないかと、教師は斯く胸に此の青年を認識しつゝ、あつた刹那、青年の電車掌は今や乗客を下車せしめて後、來りいふやう。

「先生今少しよい職業を探して下さいませんか。」

「幾つになつたかねえ。」

「はや二十一歳になりました。」

「お前の得意の仕事は？ 何がお前によく出来るのかね？」

「私は十五歳の時に學校を退き、それから引續いてこんなことをやつてゐましたが、昨年父は死去し、後に残る家族の爲めに今少し勞銀を取らねばならぬことになりました。」と、あはれは此の師弟二人の胸の裡に深く深く結ばれた。

斯くの如き悲惨な實話は米國の都會に今や充滿して居る。此れを救ふものは金ではない、又、一片の同情心でもない、必ずや之を救ふものは此の不運兒に寄する同情を以て社會の大局と將來とを達觀し以て改革せらるべき教育の制度及方法にあらねばならぬ。

(五) 職業教育の效果

スタツホード、パーソン博士が其の新著『實業教育』の一書中に開卷先づ實業教育が雇人及雇主の二者に對して莫大なる利益を與ふることを述べ、更らに推論して實業教育が如何に社會の安寧に資し、又如何に國家の富力に及ぼす利益の大なるかを詳論して大いに實業教育の必要を絶叫した。
リンクベルト工業會社長ゼームス、エム、ドツヂー氏の統計表は次のやうである。

工業教育の程度と職工俸給比較表

店商場工	未熟の労働者	一週間給料	年	齡
		此れ以上に進まず	10 ^円	17 ^円
		三、九 ^円	二〇 ^歳	
		三、二〇 ^円	二三、六 ^{ヶ月}	

身出	身出學大	校學業工	校學手工	身出
此れ以上に進まず				一五、八〇
	一〇、二二、三九	一三、三三、四二	一三、一五、一六、二二	二四、一九、二〇、二二、二五
	一〇、二二、三九	一三、二七、三三	一三、二〇、二六	二四、一九、二〇、二二、二五
	一〇、二二、三九	一三、二七、三三	一三、二〇、二六	二四、一九、二〇、二二、二五

業 卒

五〇、

三、

更らにハツブグッド會社長ハーバード、ハツブグッド氏は次の如く統計を示した。

商業教育の程度と店員俸給比較表

業 卒 學 大	業 卒 學 中	一 週 間 給 料	年	齡
		二、三、	一、五、	三、 _半
一、六、	九、	二、七、	二、三、	二、七、
二、	二、	二、	二、	二、

要するに以上統計の教ふところは學校教育の程度は俸給漸加の金額に正

比例を示すのである。換言すれば實業教育の程度に正比例しつゝ、生存力、精力、生活力を増加せしむといふに歸著するのである。

教育の力も偉大なるものではないか、教育のない職工が早くも二十二歳若くは二十五歳にして生活力の極點に達し、已に俸給の最高額を受け、將來増加せらるべき見込のないのに反して、他方學校出身者は二十五歳前後に於ては教育なき職工、店員と其の俸給額に差異がないのである。併し年々實際的經驗を積むに従つて生活力を増加し、俸給額は年を追うて晩年に至るまで漸加せしむる精力を有するのである。職業教育の必要は正に此の社會的一大事實の上に雄辯なる證左を含有するものといつてよからう。

(六) 小學校に於ける職業教育

(イ) 根本教科としての讀書

職業教育の見地よりすれば小學校教育に於ける讀書は寧ろ實業知識を養成するに當つて必要な根本教科と見るが妥當である。讀書力のない實業は正確を缺き、文書の力に乏しい商業は徒らに損失を大ならしむるに止まり、讀むに拙

なる凡ての實業は遂に大勢と其の進歩を共にするに際して必ず其の第一歩を他に譲らなくてはならぬ。此に於て讀書の力を養成するは實業家としての一大資格を與ふる所以である。此の意味に於て職業教育を標榜する者も決して讀書を排するのではない。彼のパーソン博士が「高等一學年より始めて實業教育を施すべし、併し一般教育は形式的目的を以てなるべく永續せしめよ」といつたのは矢張り此の意味に外ならないのである。又、紐育市教育局の發表した報告書の中に實業教育に文學的趣味を養成するは實業家として高尚なる趣味と思想とを有せしめ従つて人格を高潔圓滿に發達せしむる所以であるとし、却て之を重要視したるを見ても職業教育が必ずしも讀書、文學を排斥するものではないといふ好箇の證左となるのである。

職業教育の立脚地よりして讀本中には實業的知識、材料を集め、作文には日常往來の書簡文の外商用作文、農家作文等を課して居るのは愈々其の教育を實際的にする意に外ならぬのである。彼のクロスウェル氏は「巧みに洗濯し得るものは怪しき羅典語を操るものよりも遙かに勝る」と、極言した。實際的の人生活動の價

値より之を見れば車夫の馬を御す一喝は無賴學生が詩吟の妙音に勝ること數倍であるといはねばならぬ。

(ロ) 基礎教科としての地、歴、數學、自然科學

數學は實業の生命である。教へなくてはならぬ。地理は實業への案内である。教へなくてはならぬ。歴史は祖先の實業を語る過去經驗の記録である。學ばせなくてはならぬ。物理、化學、動物、植物、礦物、生理學等理科の名の下に教へらるゝ自然研究は實業の材料、材料の性質、自然と人事との交渉、實業の範圍を教ふるものであるから授けなくてはならぬ。

小學校に於ける地理、歴史、數學、自然科學の學習は斯くの如く必要である。併し導くに法あり、教ふるに道あり、若し其の目的と方法とを誤らば恰も料理を誤られた食物のやうで下散して何等當初の希望を達するものではない。

蓋し地、歴、數學、自然研究は實業の基礎教材として必要なものである。

然らば小學校では實用算術を教へなくてはならぬ。地理には實業地理を加味すべきである。幾多の山川の名稱を記憶するよりも礦山地、貿易場の性質、商業の

實狀實業地の現在及將來を知る方が遙かに人生に必要であらう。

地理を教授するには理論に走つてはならぬ。郷土を主とし基點として教ふべきである。郷土管内の地理は兒童を引率してその實狀を知らしむべきである。工場を訪はしむべきである。商況を窺はしむべきである。登山に導き手を礮石、木材に觸れしむべきである。或は田畑、原野に伴うて其の地質を味はしむることである。草木を判斷させ或は之を分類せしめ、又、農作物を詳細に觀察させることである。

歴史は人文の發達、實業の進歩、人事と自然との交渉を記録するものであるから愛國心の發揮となり、又、實業の淵源に關する明瞭なる觀念を印象し、自然に對する人類の努力を教ふことが出来るではないか。

自然研究に於ては兒童をして動、植、礦物と、手指を接觸せしめ、共に語らしむべきである。學者の定義名稱に拘泥することなく、兒童自らをして觀察、判斷、説明せしむべく田園、山野、學校園、公園、博物館、動物園、植物園等に導くべきである。斯くして兒童を思想上獨立の人たらしむべきである。

初等教育に於ける教材は實用的であればよいのである。歴史的、専門的、理論的なるよりは説明的、實際的なるべきである。

同一の學科を教授するにも學級の性質及土地の狀況に應じて多少斟酌すべきであらう。大阪と東京とはボストンと紐育との如く多少其の教材を異にするべきである。

(ハ) 實業教科

米國の小學校に於て實業教科として教授するものに一般的なものでは圖畫あり、工業地の小學校に於ては器械畫法、圖案あり、其の目的とするところは實用的にして且美育的なる點にあるので、美的觀念を養ふと同時に觀察力、注意力、判斷及認識力を開發し、精神作用を練磨せんとするのである。又、實業的知識を修得せしめ、實際的に緻密なる思想を養ひ、筋肉の運動を自由ならしむるのである。要するに圖畫、手工、裁縫、音樂は此の方面から實用教育の進歩に貢献せんとして居るのである。

女兒の爲に課する裁縫、圖畫、手工、料理、男兒の爲めに課する手工、圖畫は職業教

育の範圍に第一步を踏み入れたものといつてよからう。日本の小學校に於て女兒に裁縫を課して未だ料理法を教へないやうである。米國の小學校では日常料理法、菓子果物料理法、小兒及患者食品料理法等を教授して居るのである。日本では家庭に於ける母にのみ一任して學校の與り知らないところとすまして居る。併し、食料品としての動植物の概念を授け、食品衛生、衛生と科學とを應用したる料理法の一斑を教ふることは寧ろ必要ではあるまいか。

米國では農業地の小學校に於ては簡易なる農業教育を施し、工業地に於ては手工、工業地理を授け、商業地の小學校では商業地理、商業史、商業作文及簿記を課して居るのである。

(三) 職業教育補助の學制

著しく分業の制度を實施しつゝある現職業界に於ては商店若くは工場に養成せらるゝ店員若くは職工は假令技術に熟練するとも其の學理的基礎甚だ薄弱であるから到底其れ以上の進歩を見るものはないのである。又、學校教育にのみ依頼するものは實際に疎くして活材を求むるに覺束ないのである。されば理

想的の實業教育は商店教育と學校教育とを結合した點にあるので工場教育と學校教育との一致を待たなくてはならぬ。獨逸が職工及店員をして學校に通はせ通俗的實業補習教育を與ふ可く雇主に對して雇人教育の義務法令を發布したのも其の理由とするところは此にあるものと見てよからう。

小學校を卒業して十四歳から十八歳までの四五箇年は職業教育を與ふるに最も肝要なる時期である。此の點に鑑みて米國マサチューセツト州の實業教育委員は一九〇六年次の決議を提出し、同州教育當局者の注意を促したのである。

一 既に商店工場等に雇はれた十四歳乃至十八歳の子女には夜間職業教育を與ふること、此れが實施に就ては夜學職業學校を設立するか、或は便宜に學校を代用すべきこと、又、法令を發布して職工及店員の教育に關する義務を雇主に負はしむること。

二 十四歳に達し小學卒業後は到底何れの學校へも入學し得ないものに對しては將來の希望に従つて特別の小學校を編制して職業教育の基礎概念を與ふること。

三

學校教育のない職工が前途を思慮して職業の餘閑を以て補習教育を受けんと志望するもの十八歳以上四十歳前後の職工の間に甚だ多い、教育局は此等の特志者に對しても教育的機會を與ふるやうに適當なる教育機關と制度とを定めなくてはならぬ、その方法としては特別職業夜學校を設けるとか、又商店、工場と約して教師を派遣し一定の期間或時間を割いて工場若くは商店内に於て教育するとか、通信教授としての通俗職業講義録を出すとかいろいろ工夫してほしい。

此の建議の趣旨に基いて今やマサチウセツト州には二大實業學校が設立された、ケンブリッジ及スプリングフィールドの公立夜學校といふのがそれである。

(七) 中學程度に於ける職業教育

米國に於ては中學校に實業教育を結合せるものが多い、高等學校入學の特典も有つて居るのであるから普通の中學卒業生が有する高等學校入學の特典も有つて居るのである、普通の中學校は單に High School. といふブルックリン市の

手工中學校 Manual Training High School. の如き、或は紐育市立商業中學校 New York Commercial High School. の如き此の種の農工商業中學校は修業年限を三四箇年としその性質は日本の農學校、工業學校、商業學校に似て居る、此の外紐育には職業教育の新唱導に伴うて新しい職業中學校 Vocational High School. といふのが最近に於て建設されたのである。

此等實業中學校の外に米國には純然たる實業學校がある、即ち小學校卒業生を容るゝ短かきは一箇年半、長きは三箇年の簡易實業教育を施すものがある、又、此れを夜學にして居るところもある、彼の米國各州に設けられて居る基督教青年會の催けて居る夜學校の如き、或はマサチウセツトのケンブリッジ及スプリングフィールドの公立職業夜學校の如き、或は紐育徒弟學校、女子商業學校の如き此れである、又、稍その程度の高いのには紐育のクーパーユニオン學會のやうなもの、或はブルックリン市のプラット學會のやうなのがある。

(甲) スプリングフィールド公立夜學校

同校はマサチウセツト州教育局の設立したもので、ケンブリッジ公立職業夜

學校と同性質である。同州は將來大いに此の種の職業學校を同州に増設しやうとして居る。其の校則には豫科を一箇年とし、手工、物理、化學、英語、圖畫は實業教育の根本的知識として必要であるとして教授して居る。數學、簿記(商、工、農業科によつて異なる)、商工業史をも教へて居る。生徒は一ヶ年豫科にありて將來何れの方面へ進むべき乎に就て決定するのである。決定すれば本科に導いて二箇年間の夜學教育を以て實業的知識及技術的應用、道德的涵養に力を注ぐのである。その統計表は次のやうである。

入學生徒數	入學經驗を得んとす 知識を得んとす の目昇進せんとす 的増俸を受けんとす			
	一日給料増加の最大額	平均	最小	最大
數學	一、二五	九	一、一三	一、〇〇
器械	二、〇〇	二五	二、三〇	一、七〇
圖案	二、〇〇	一三	一、七〇	一、四〇
土木	〇、五〇	四	五、五〇	二
水道管	二、〇〇	二	一、二〇	三

(乙) 紐育工業學校

平均年齢	一日給料増加の最小額			
	平均	最小	最大	平均
年	一九一三	六八	八八	二、五〇
平均	一九一四	八八	一、二二	二、五〇
年	一九一五	一、二二	四、五〇	一、七五
平均	一九一六	二、三二	三、一六	〇、三〇

同校は一八八一年の創立で、工業の實地を教ふると共に技術の根本をなす科學的原理をも併せ教授し、現社會の要求する實地工業家を輩出せしめた點に於て歐米識者の注意を惹いたのである。同校は晝間及夜間に分ちて教授するのであるから在職の徒弟の就學するには至極便利である。一箇年少くも九百名の生徒が出席し、水道、土木、家屋、裝飾、溫暖法、電氣工學、鍛冶、印刷、左官、大工、ペンキ等の諸科に分れて居るのである。

(丙) 猶太女子職業學校

其教ふるところは商科に於て速記術、簿記、タイプライター、習字、料理、體操、文學、

歴史、聲、音學、商業算術、地理、生理學、社會倫理等である。十八箇月を以て修了せしむるといふのである。

手工科には裁縫、洋服、帽子製造、縫箱、料理、習字、體操、文學、歴史、數學、地理、生理學、社會倫理、音樂、圖畫等を教授して居る。

現在の生徒は約三百名に近い。一九〇三年に卒業して一週八弗の給料を得て生活せしものが一九〇四年には一週九弗、一九〇五年に十一弗、一九〇七年には十五弗、一九〇九年には十八弗に昇つたといつて居る。又卒業生の給料平均額を統計すればタイプライターとして働けるものは一週十一弗四十仙、簿記係には一週十一弗三十四仙、之れを兼ねるものは一週十一弗二十仙、帽子工場に働くものは一週七弗五十仙、洋服店に入りて九弗七十仙、裁縫に従事するものにして一週六弗二十仙、教師となるものは一週十四弗二十仙、賣子となつたものは一週九弗四十仙の平均額を受けて居るといふのである。

(丁) マンハツタン女子職業學校

其目的とするところは同校最近の年報に書かれた通り、(一)若い女工の身體、精

神、道德及經濟狀態を改善せんとし、(二)工業に志す女子に對し技術を熟練せしめ、實業的精神と工業的に手指を教育し、(三)女子の勞働及其の生活の問題に實際的解決を與へ實業國前途の開拓に貢獻せしむといふにあるらしい。

入學資格としては十四歳以上十七歳未満の女子にして小學校五年級同等の教育を修了したものに限つて居る。同校の特色ともいふべきは(一)小數の生徒は小學校を卒業して來て居るけれども多數は小學校の五六若くは七年級より轉學して居る。(二)生徒の家庭は赤貧洗ふが如く到底生徒をして三四ヶ年の職業教育に堪えない、此等の不幸なる少女に職業教育を與へるといふのである。(三)同校出身者は十五歳若くは十七歳にして職業に就くから彼の女學校や専門學校出身の女子達が向ふところとは大いに違ふのである。

生徒は約五百名あり、裁縫科、女子洋服、男子洋服、小兒洋服、シャツ、ズボン、下製造、男子帽子製造、製本、意匠、料理等の部門がある。商業算術、英語、商法、倫理等の學科をも教授し、又體操、遊戲、舞蹈、身體檢查、衛生講話等の體育に關する目がある。年限は一箇年に限つて居る。一九〇二年出身者卒業後の成績統計表は次のやうである。

	一週間に受くる給料額			
	一九〇三年	一九〇七年	三年以後	將來豫期し得べき最高額
洋服	三一五 ^半	四一七	五一三	二五
小間物	二、五〇—四	三一五	四一九	二一—一五
裁縫	三一六	四一八	五一二五	一五—四〇
意匠	三一六	三一六	五一〇	一八—二五
製造工業	—	五一八	—	二〇以上

第十五章 悪試験

一、試験勉強の弊

中學校及高等女學校以上の學校では試験の爲めに勉強するといふのが多い。學生は競争心に驅られ、試験前に過度な一時勉強をする、之れが爲めに往々心身を害することもある、近年小兒及青年學生の腦病とか、沈鬱症とか、神經衰弱等は

主として學校に於ける試験が原因であるといふこと、又、學生の自殺の多くは試験に失敗、入學試験に、卒業試験に、檢定登用試験に、不合格であつた爲めに自殺するなどいふのがあることを思へば、現今の試験は大弊害の源であると言はねばならぬ。

又、試験の爲めに勉強する悪習と、時には試験場に於けるカンニング、盗視などいふ不正行爲まで行はるゝやうになつたのである。

而も試験前の一時勉強はその効果が甚だ少ない、試験が済むと大部分忘れてしまふのであるから實力を増進せしむる方法ではない。

試験をしなければ學生は勉強しない、勉強しないから試験をする、試験は廢すべくして廢すべからざるものゝ一つである。又、甚だしいのになると試験の強行を以て學校、若くは教員の意志に従はしめ、威嚴を加ふる一策と心得て居る。斯くの如きは確かに試験を亂用するの甚だしいものであると言はねばならぬ。

二、試験の目的及價值